

目 次

社会貢献活動報告

○令和7年度防災フェスタ出展参加報告	防災委員会委員	山本 亮輔 …	1
--------------------	---------	---------	---

年次大会報告

○令和7年度（第17回）年次大会報告	広報委員会委員長	岩佐 隆 …	3
--------------------	----------	--------	---

防災見学会・講演会開催報告

○令和7年度防災見学会・講演会開催報告	防災委員会委員	山地 健二 …	5
---------------------	---------	---------	---

各委員会報告

○総務委員会報告	総務委員会委員長	豊崎 裕司 …	9
○事業委員会報告	事業委員会委員長	谷脇 準藏 …	11
○広報委員会報告	広報委員会委員長	岩佐 隆 …	13
○修習技術者支援委員会報告	修習技術者支援委員会委員	一宮 礼人 …	15
○防災委員会報告	防災委員会委員長	木村 一成 …	17
○試験業務支援委員会報告	試験業務支援委員会委員長	加藤 均 …	21
○青年技術士交流委員会報告	青年技術士交流委員会委員長	西村 紘寛 …	23
○倫理小委員会報告	倫理小委員会委員長	丸山 正 …	25

県支部活動報告

○高知県支部活動報告	高知県支部事務局長	松本 洋一 …	27
------------	-----------	---------	----

各県技術士会だより

○徳島県技術士会だより	徳島県技術士会事務局長	佐藤 悦史 …	29
○香川県技術士会だより	香川県技術士会事務局長	山地 孝樹 …	31
○プラスワン例会報告（香川県）	香川県 機械部門	吉田 智紀 …	33
○愛媛県技術士会だより	愛媛県技術士会事務局長	小椋 匡 …	39

リレーエッセイ

○～仕事、ときどき旅―復興の景色―～

中川 頌将 … 43

協賛団体

○協賛団体

… 45

☆編集後記・各県広報原稿担当委員

… 46

☆四国支部会報投稿規程（裏表紙背面）

PEしこく Vol.31

令和8年 7月 24日発行

令和7年度 防災フェスタ出展参加報告

防災委員 山本亮輔

YAMAMOTO Ryosuke

株式会社 地研



1. はじめに

2025年10月4日(土)～5日(日)に香南市において、株式会社技研製作所主催の「防災フェスタ2025～地域をつなぐ安全の輪～」が開催されました。(公社)日本技術士会四国本部(防災委員会)は、10月4日(土)にブースを出展しました。

フェスタの概要を以下に示し、出展した状況及び所感を報告します。

防災フェスタ概要

1) 目的

体験や展示を通じて地震や津波、洪水などの災害に備える大切さを楽しみながら体感する。

2) 日時・場所

令和7年10月4～5日(土、日) 10:00～16:00
高知県 香南市 赤岡町

3) 体験・展示の概要

体験・展示

- 体験
 - 防災食品の試食(高知県)
 - 起震車体験(高知県トラック協会)
 - 双眼鏡を使った目標発見体験(第50普通科連隊)
 - 警務隊(陸上自衛隊)の鑑識体験(第133地区警務隊)
 - 南極の氷 溶ける音を聞く体験(自衛隊 高知地方協力本部)
 - レスキュー体験(高知県警警南国警察署)
 - ヤングレンジャー体験、放水体験(香南市消防本部)
 - 救護服着用体験、応急手当体験(日本赤十字社高知県支部)
 - 防災グッズ作り体験※2(日本防災士会 高知)
 - ドローン操縦体験(ドローニクス・HBFA)
 - サイレントパイラー™操作体験、VR体験(技研製作所)
- 展示
 - プレート境界地震の発生説明模型※1(高知地方気象台)
 - 備蓄品・防災関連製品の紹介(高知県)
 - 住宅耐震模型・パネル展示(香南市)
 - 自衛隊車両、人命救助資材、災害派遣活動のパネル展示(第50普通科連隊)
 - 音楽隊演奏※2、車両展示(高知県警警南国警察署)
 - 炊出し品・救急車の展示(日本赤十字社高知県支部)
 - 液状化実験装置・ハザードマップパネル展示※1(日本技術士会)
 - 車中泊グッズの展示、給電方法の紹介(ネットヨタ高知、高知日産プリンス販売、日産サテオ高知、白販連)
 - ダンボール製品の展示・販売(タケナカダンボール)
 - 災害時に活躍するドローンの展示(ドローニクス・HBFA)
 - など

※法人格等敬称略

2. 全体の展示状況

1) イベントの状況

企業や(公共)団体による災害関連の展示が14ブース、飲食関係が8ブース展示していました。展示ブースの中では、放水体験や起震車体験などが特に盛況でした。また、御当地グルメ等の飲食店にも行列ができていました。主催者の報告によると、来場者は2日間で約6,000人にのぼり、イベント全体として盛況であったとのこと。



写真-1 餅まきの状況



写真-2 放水体験の状況



写真-3 展示ブース状況

3. 技術士会の展示ブース状況

今回は6月の高知県主催の地域防災フェスティバルと同じく、液状化を展示テーマとしました。展示ブースには技術士の活動紹介に加え、液状化実験、ハザードマップ等の説明、よろず相談等のコーナーなどを設けました。



写真-4 技術士会展示ブースの状況

1) 液状化実験コーナーの状況

水槽内の水で飽和した砂を振動させることで液状化が発生する簡易実験装置を展示しました。液状化によって水槽内の模型の家が沈み、ピンポン玉が浮くという現象が確認できます。

このコーナーは子供に人気が高く、液状化の様子を熱心に見つめる姿が多く見られました。保護者の方々も興味を持って一緒に観察しており、親子で防災への関心を深める良い機会となりました。



写真-5 液状化模型実験の状況

2) よろず相談コーナー等の状況

高知市の各種ハザードマップを用い、自宅付近の液状化危険度などを確認してもらうとともに、液状化が発生した場合の金銭的被害をどのように軽減できるかなど、個別相談にも対応しました。



写真-6 よろず相談の状況

4. 今後の課題

1) 液状化実験模型の工夫

液状化実験後の締まった砂を緩める作業の簡素化を検討する。液状化で擁壁などが倒壊する様子を再現できる模型の追加等を検討など、より興味を持ってもらえる工夫を追加したい。

2) 液状化マップの説明の工夫

当日は電波状況が不良で、タブレット等での液状化判定箇所の検索に時間を要しました。今後は、あらかじめ開催地周辺の液状化マップを紙媒体で準備しておくとともに、防災関連サイトのQRコードを配布し、来場者が自宅で閲覧できるようにするなどの工夫を追加したい。

5. おわりに

来場者は若い家族連れが多く、防災への関心や意識の高さが伺えました。特に、自宅周辺の液状化危険度や災害リスクに関する質問が多く寄せられ、熱心に説明を聞いてくれました。

今年は、高知県総合防災訓練・地域防災フェスティバルに続く2回目の防災フェスタ参加となりました。展示ブースには140名程の来訪があり、多数の市民との交流ができたと感じています。

今後もこのような一般向けイベントへの出展を通じて、防災意識の向上と地域の安全・安心づくりに加えて、技術士の知名度向上にも貢献していきたいと考えています。

最後になりましたが、今回のイベントの運営にご尽力いただいた主催者および関係各位に深く感謝申し上げます。

令和8年度(第17回)年次大会報告

四国本部広報委員会

委員長 岩佐 隆

IWASA Takashi



1. はじめに

令和8年6月23日(火)、高松市のホテルパールガーデンにおいて、令和8年度(第17回)年次大会を開催した。その概要について報告する。

2. 本部長挨拶要旨



写真-1 天羽本部長の開会挨拶

令和7年度も多く事業活動を実施してきたが、本年度も四国本部の『新たなビジョン・事業方針』（詳しくは四国本部 HP 参照）に基づき、引き続き取り組みを継続・計画している。

本年の計画事業のトピックスとしては、来年の令和9年10月16日～17日に「第56回日韓技術士国際会議（四国・高松）」の開催が決定している。そこで、この国際会議の準備のため、四国本部委員を中心に運営委員会を立ち上げ、現在検討・準備を進めている。そのため、本年は10月16日～18日に韓国で開催される「第55回日韓技術士国際会議（韓国・仁川）」に次年度開催地として、是非、本年と来年の本会議へ多くの会員の参加をお願いする。

一方、他地域本部との連携においては、令和7年11月27日～28日、「第30回西日本技術士研究・業績発表年次大会」が中部本部主催にて名古屋市で開催される。今回は、『技術の新た

な融合と価値の創出』～多様化する課題に挑む技術士～、をメインテーマとして、2つの分科会に分かれる。

第1分科会は『防災・減災につなげる技術の融合』、第2分科会は『技術士による広範な産官学連携や市民協働の新たな取組み』をテーマとし、それぞれ一般と青年男女を対象として実施される。

さらに、令和8年11月6日～9日、「第52回技術士全国大会」が北陸・石川県金沢市にて開催される。開催テーマは『北陸から未来に拓く持続可能な社会』～災害大国日本の創造的復興を支える技術士の使命と挑戦～としている。当地は令和5年1月1日に「能登半島地震」で被災し、今も復興の最中だが、地域再生にはなお長い時間を要する状況である。四国では来るべき「南海トラフ巨大地震」への対応として、多くの教訓を得られる機会でもあり、今後の防災・減災の取組に生かす知見も得られるものと考えている。

これらの行事には、全国から多くの技術士が参加するので、四国本部会員の皆様も参加し、技術の研鑽はもとより他の地域本部の方々との交流を深めていただければと願っている。

そして、日本技術士会統括本部における昨今のトピックスとしては、①技術士制度におけるIPD事業への対応、②会員拡大、CPD及びCPD認定への取組み、③DEI推進、④技術士倫理啓発、資質向上、⑤大規模自然災害に対する防災・復興支援活動への貢献などが挙げられる。

なかでも③DEI推進では、まず現状を把握し推進に当たっての課題を抽出してその解決策を立案、そしてアクションプランの構築を進めている。

本年度も皆様方とともに技術士の地位向上・認知度向上、社会への貢献、四国本部のさらなる発展をめざし、会員の皆様に満足していただける会となるよう努めて参りたい。

3. 議事概要

豊崎総務委員長の司会進行のもと、令和7年度事業報告及び収支決算報告並びに監査報告、令和8年度事業計画及び収支予算、四国本部の組織運営体制について、それぞれ谷脇事業委員長及び栗本事務局長、菊池会計幹事より報告があった。



写真-2 豊崎総務委員長



写真-3 谷脇事業委員長



写真-4 栗本事務局長



写真-5 菊池会計幹事



写真-6 年次大会の様子

4. 本部長表彰の授与

四国本部の委員会委員を5年以上務めるなど、顕著な活動実績があった次の7名の正会員に表彰盾が授与された。

広報委員会委員	朝倉 光司 氏
広報委員会委員	大原 隆司 氏
青年技術士交流委員会委員	黒川 修吾 氏
青年技術士交流委員会委員	土居 範昭 氏
防災委員会及び	
修習技術者支援委員会委員	平野 嘉久 氏
男女共同参画推進小委員会委員	武間 亮香 氏
事業委員会委員	山村 猛 氏



写真-7 左から受賞者の山村委員、平野委員、土居委員、黒川委員、朝倉委員、天羽本部長

続いて、勤続10年の節目を迎える四国本部事務局 篠好美氏に永年勤続表彰として表彰盾が授与された。



写真-8 受賞者の篠氏と天羽本部長

5. おわりに

四国本部では、内部の組織力の強化はもとより、引き続き行政・産業界・地域社会との連携を深め、四国が抱える喫緊の課題に対して、あるいは四国の持続的な発展と安全・安心の確保に向けて、技術士会としての役割を果たしていきたいと考えています。

今後とも、四国本部の活動への温かいご支援とご協力をお願いします。

令和7年度 防災見学会・講演会開催報告 (高松市生島町下笠居地区小坂護岸、宮池)

四国本部防災委員会

防災委員・防災士 山地 健二

YAMAJI Kenji



1. はじめに

公益社団法人日本技術士会四国本部の常設委員会の一つである防災委員会では、主催活動の一つとして毎年秋頃に防災に関する見学会・講演会及び意見交換会を実施している。

本年度の防災見学会は、香川県高松市生島町下笠居地区の防災訓練に参加する形で下記の内容で開催した。

- 日時：令和7年11月16日(日)
12時～16時30分
- 場所：香川県高松市生島町下笠居地区
- 参加者数：高松市西消防署 11名
高松市危機管理課 2名
高松市建築指導課 2名
災害時指定職員 7名
防災のもり 1名
一般市民 111名
地区各種団体関係者 35名
学校等関係者 60名
ハピネス 5名
西村ジョイ 2名
事務局 2名
四国本部会員 12名
計 250名

2. 概要

本防災見学会・講演会の概要を表-1に示す。

平成16年は香川県に影響した台風が8個と史上最多であり、特に台風16号による高潮では、県下の多くの地域で既往最高潮位を更新し、死者3名、負傷者6名、床上・床下浸水21,960戸の被害を記録している。

上記高潮被害を踏まえ、県では平成17年度より小坂護岸の天端高の嵩上げ工事を実施した。

今回は、今後起こり得る高潮・津波に対して既設天端高は耐えうる状況なのか、内水対策は万全なのか等の運河沿いに立地する下笠居地区の住民の疑問に対して、現地確認・講演・意見交換を行った。

一方、香川県では降水量が少なく、渇水が多いという地域であるため、古くから農業用水をため池に貯め、節水しながら営農してきた歴史がある。

今後の発生が予想される南海トラフ巨大地震や、近年増加する集中豪雨などの自然災害発生のリスクに対して、下笠居地区内のため池である宮池の耐震性等について講演・意見交換を行った。

表-1

時刻	プログラム	内容
12:00~13:00	現地見学会	小坂護岸、水門の視察
13:00~14:30	防災訓練①	救急救命訓練
	防災訓練②	避難所開設訓練
	防災訓練③	間仕切り・段ボールベッド設置訓練
	防災訓練④	非常食試食体験
	防災訓練⑤	防災グッズ展示見学
14:30~16:30	講演会①	小坂護岸周辺の高潮・津波対策等について
	講演会②	宮池の耐震性について

3. 高松市生島町下笠居地区

小坂護岸が位置する下笠居地区は高松市北西部に属し、北側は瀬戸内海に面しており、すぐ内陸方面には五色台が広がることから、平地が少なく面積の多くが山地で占められていることが特徴として挙げられる。

この地域は、上記地形条件から土砂災害、津波・高潮災害のリスクを内包しており、現状の整備水準は一定の安全性を有するものの、地域主体での運用体制強化と中長期的な防災対策の検討が必要

とされている。

4. 防災訓練概要

下笠居地区の防災訓練は下笠居中学校の体育館で行った。ここは同地区の災害時の避難所に指定されている。

1) 救急救命訓練

高松市西消防署員の指導の下、AED 取扱要領、心肺蘇生法、毛布担架の作り方等を受講し、実技訓練を行った。

2) 避難所開設訓練

災害時指定職員・防災のもり・防災部会の指導の下、避難所開設キットを使用し、避難所運営組織の役割について受講した（写真—1 参照）。

3) 間仕切り・段ボールベッド設置訓練

災害時指定職員・防災部会の指導の下、間仕切り・段ボールベッド・簡易トイレの設置・利用方法について受講した（写真—2 参照）。

4) 非常食試食体験

災害時指定職員・防災部会による非常食の炊き出し訓練の一環で、非常食の試食を行った（写真—3,4 参照）。

5) 防災グッズ展示見学

西村ジョイが展示した、分散避難のための耐震対策グッズ・備蓄品等を見学した。



写真-1 避難所開設キットの使用訓練



写真-2 段ボールベッドの設置訓練



写真-3 非常食炊き出しの様子



写真—4 非常食のメニュー

5. 小坂護岸見学および講演会

小坂護岸は下笠居地区の中央部に位置し、香川県総合運動公園に隣接し、地域住民が利用している自治会館も護岸南側に隣接している（図—1 参照）。現地見学の際には、護岸中心部に設置されている水門も確認できた（写真—5 参照）。

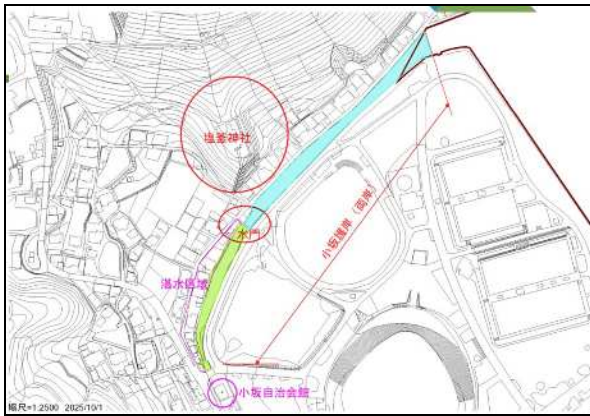


図-1 小坂護岸位置図



写真-5 水門の現地見学

護岸の水門より下流側の天端高は $TP+2.81m$ で、平成 16 年最高潮位 ($TP+2.46m$) および高松港 L1・L2 津波水位 (最大 $TP+2.7m$) を上回り、高潮・津波に対して一定の安全性が確保されていると判断される。

ただし地震時に護岸が沈下した場合は、浸水リスクが残るため、耐震性の詳細解析が必要である。水門操作は西側が手動 (写真-6 参照)、東側が自動ゲートで対応しており、閉塞時の内水位の上昇については降雨解析が不可欠である。また湛水区域 (水門より上流側) の護岸高は $TP+2.24m$ と低く、水門が機能しないと津波時には浸水する可能性が高い。

避難は津波注意報段階で開始することが望ましく、塩釜神社等への退避や関係施設との協定整備が必要である。自治会館は浸水高を考慮すると利用可能だが、トイレ等の機能は限定され、物資搬入も 1~2 日遅れる見込みである。



写真-6 西側水門(下流側より撮影)

上記結果から、今後検討すべき課題として以下の点が挙げられた。

- ① 水門閉鎖後の上流側水路区間の水位上昇による溢水対策
- ② 護岸の耐震性と浸水リスクの調査実施
- ③ 小坂自治会館の避難所としての有効性および他避難場所候補地との協定整備

6. 宮池講演会

宮池は小坂護岸より南東に 1.1km ほど下った先に位置しており、農業用ため池として防災重点ため池に指定されている。

前法面には護岸ブロックが設置され、後法面は標準勾配よりやや急に見えるものの、大きく外れた形状ではないと考えられる。洪水吐は一度改修されており、道路は旧堤体上部の盛土上に設置されているため、堤体全体としては安定側に働いていると判断される。

一方で、耐震性の有無については、今回の調査だけでは判断できず、詳細な地質調査および円弧すべりによる安定解析を行う必要がある。

宮池が地震等により万が一決壊した場合、下流の谷地形に沿って浸水が広がると想定されるが、最大浸水深は概ね 1.0m 未満と見込まれ、家屋そ

のものが流される可能性は高くないと考えられる（図－2 参照）。

ただし、浸水域のうち歩行による避難が困難～不可能となる範囲が5割以上に達すると推定され、避難のタイミングや方法が重要な課題となる（図－3 参照）。「ため池の水が一度流れた後に避難行動を開始する」といった現実的な行動案を含め、自主防災組織内で事前に議論し、住民間で共通認識を持つ必要がある。

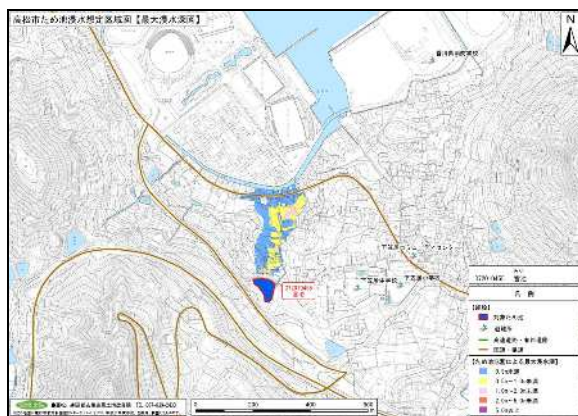


図-2 宮池浸水想定区域図(最大浸水深図)

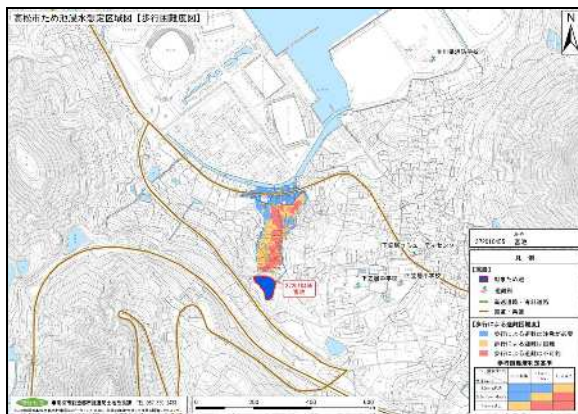


図-3 宮池浸水想定区域図(歩行者困難度図)

上記結果から、今後検討すべき課題として以下の点が挙げられた。

- ① 耐震性の有無についての地質調査・安定解析の実施
- ② 堤体決壊時の避難のタイミングの考え方
- ③ 継続した日常的な点検・保全管理

7. 講演会の内容

◇生島地区小坂護岸周辺の高潮・津波対策について

講師：日本技術士会 四国本部 防災委員
三井 修二 氏

◇生島地区宮池の耐震性について

講師：日本技術士会 四国本部 防災委員
飯田 博司 氏

講演会には防災訓練後ということもあり、地元住民の方に多くご来場頂き、地元住民と防災委員を交えた意見交換が活発に行われた。

また、防災委員の過去の職務経験から今後の方針の検討につながる専門的な意見も何点か述べられ、非常に有意義な意見交換の場となった（写真－7 参照）。



写真-7 講演後の意見交換の様子

8. おわりに

防災訓練には多くの地元住民が参加しており、下笠居地区の方々の防災意識の高さが感じられた。また、訓練後の防災講演会にも多くの地元住民の方々にご参加頂き、下笠居地区として今後取り組むべき課題に関して、自助・共助・公助の様々な観点から幅広く議論することができた。

本防災見学会は、高松市および香川県並びに下笠居地区の関係者の皆様の多大なるご支援により実施することができました。ここに感謝し、御礼を申し上げます。

総務委員会報告

四国本部総務委員会

委員長 豊崎 裕司

TOYOSAKI Yuji



1. はじめに

四国本部総務委員会は、常設 7 委員会と男女共同参画推進小委員会、倫理小委員会の 2 小委員会の正副委員長および高知県支部 3 役の 26 名で構成されています。同委員会は、四国本部の秩序・信用の維持、組織・運営管理ならびに財務管理に関する事項など、運営・活動の根幹に係る基本事項について検討・調整を行い、下記（１）～（３）の基本方針に基づく取り組みを推進しています。

（１）四国本部ビジョンで掲げる「４つの事業方針」の実現に努めることとし、下記 1）～ 5）を活動ポイントとしています。

- 1) 四国らしい特色のある活動
- 2) 地域に根ざした社会貢献活動の取り組み
- 3) 一般にも興味深く話題性があるテーマ設定
- 4) できるだけ多部門の技術士が参加できる事業内容
- 5) 多様な連携の推進

（２）公益社団法人としてふさわしい対外的な活動の活発化により、認知度の向上を図る。

（３）組織としての魅力度を高め、会員サービスを向上させ、会員数の拡大増強を図る。

これらの基本方針を着実に推進することにより、四国本部に所属する技術士の発展につなげ、さらに未入会者の技術士会への参画を促す活動に努めていくこととしています。

2. 総務委員会開催状況及び活動報告

（１）統括本部総務委員会

WEB と対面形式を併用したハイブリッド形式

1) 日程

2025～27 期総務委員会について、2025 年度は以下の日程で 6 回開催しました。

第 1 回: 令和 7 年 8 月 27 日

第 2 回: 令和 7 年 10 月 15 日

第 3 回: 令和 7 年 12 月 17 日

第 4 回: 令和 8 年 2 月 18 日

第 5 回: 令和 8 年 4 月 15 日

第 6 回: 令和 8 年 6 月 17 日

2) 議事概要

① 2025 年度総務委員会活動方針（第 1 回）

・委員長から活動方針、小委員会の設置等について説明が行われた。

② 企業内・大学技術士会（緩やかな連携）の連絡先等の取り扱い（第 2 回）

・連絡先の技術士会内部での利用依頼に際して、統括本部事務局が利用内容を都度確認し、適切に利用されるよう責任をもって管理することが承認された。合わせて相互協力協定に関する留意事項の説明があった。

③ WEB 名簿上に開示される個人情報の取り扱い（第 2 回）

・入会手続きの際に申請者が WEB 名簿上での個人情報を公開・非公開を選択できるように申込方法を変更し、事務局が初期入力の際に申請者の希望を反映する。

④ 地域組織に関わる業務受託契約（第 3 回）

・統括本部との契約が原則であり、それ以外は個人での契約となることが報告された。

⑤ IPD 関連規則改定（第 4 回）

⑥ 2026 年度新名誉会員、フェロー認定、会長表彰について（第 5 回）

⑦ IT サービス（WEB 会議ツール、クラウド、メールアドレス）の導入について（第 5 回）

（２）四国本部総務委員会

懸案事項等について、必要の都度メール・電話を活用し意見交換・検討を行いました。

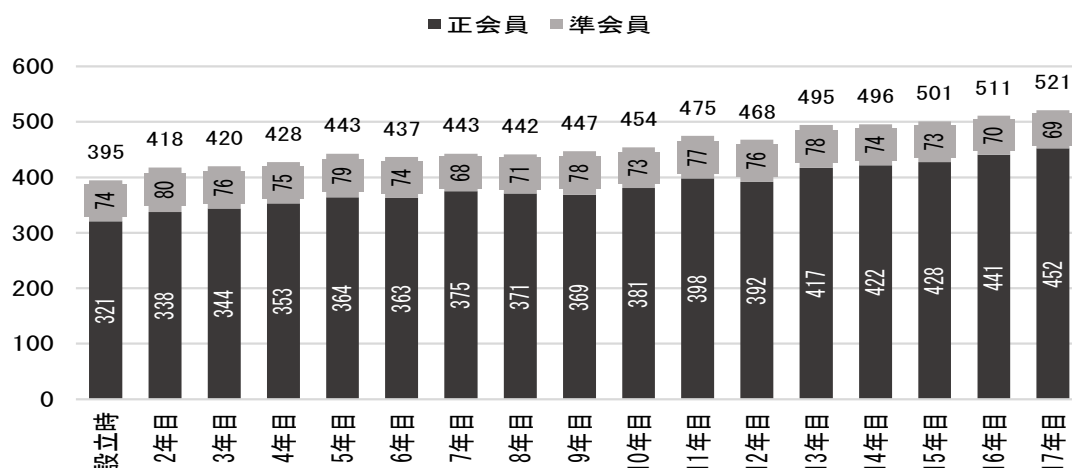


図-1 会員数の経年変化

表-1 正会員の推移

3. 四国本部会員数の状況とその取り組みについて

(1) 会員数の状況

会員拡大は総務委員会の最重要課題として、各種施策における成果や指標を確認しながら重点的に取り組んでいます。当初目標の会員数 400 名は、設立から 13 年目の令和 4 年に達成しましたので、新たな目標として 20 年目の令和 11 年に会員数 500 名を掲げています。

(2) 取り組み

会員に対するメリットやサービスを向上させる一環として、逐次、四国本部 HP の改訂を行っています。会員、準会員、さらに一般、学生に対しても四国本部が実施する行事内容がタイムリーに発信できるよう、より適時適切な情報提供サービスに努めていきます。

現在、統括本部 HP のトップページには技術士会入会 7 つのメリットが示されております。これらのメリットを会員の皆様にも十分に享受していただけるように、四国本部としても提供するサービスや事業内容の充実を図っていききたいと考えており、これまで以上に社会的な認知度の向上が図られる事業の企画・運営に努めてまいります。

4. おわりに

会員数の増加は四国本部のさらなる活性化と発展には欠かせない要素となっていますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

	現 在 R 8 . 4 現	設 立 時 H 22 . 5 末	設 立 前 H 21 . 3 末
徳島県	8 2	7 2	6 3
香川県	1 6 9	1 3 3	1 1 1
愛媛県	9 5	6 9	5 8
高知県	1 0 6	4 7	3 7
四国計	4 5 2	3 2 1	2 6 9

表-2 技術部門会員数 (R8.4 現在)

技 術 部 門	正会員	準会員	合計
機 械	1 6	7	2 3
船 舶 ・ 海 洋	1	0	1
航 空 ・ 宇 宙	0	0	0
電 気 電 子	1 6	6	2 2
化 学	1	1	2
繊 維	3	0	3
金 属	1	1	2
資 源 工 学	1	0	1
建 設	3 1 6	3 3	3 4 9
上 下 水 道	3 7	8	4 5
衛 生 工 学	9	1	1 0
農 業	2 5	8	3 3
森 林	9	2	1 1
水 産	1	0	1
経 営 工 学	4	1	5
情 報 工 学	5	4	9
応 用 理 学	3 3	3	3 6
生 物 工 学	5	4	9
環 境	1 3	8	2 1
原子力・放射線	0	0	0
合 計	4 9 6	8 7	5 8 3
総 合 技 術 監 理	1 3 2	0	1 3 2
純 会 員 数	4 5 2	6 9	5 2 1

事業委員会報告

四国本部事業委員会
委員長 谷脇 準藏
TANIWAKI Junzou



1. はじめに

事業委員会は、「技術力並びに資質向上の活動」と「社会貢献活動」、「技術士の認知度向上」を基本方針として、CPD セミナーや公開講座等を年8回（2回/県）開催しています。また4県で4年連続の開催となった“地域産学官と技術士との合同セミナー”を開催、4年に1回の頻度で“西日本技術士研究・業績発表年次大会”の交流行事を開催し会員サービスの向上を図っています。一方、社会情勢の変容に追随して、令和元年に男女共同参画推進小委員会を新たに事業委員会内に組織し、女性技術士の活躍と共同参画をテーマとしたサロンを開催する等、時代の要請に応えた活動も活発化させています。

令和7年度は、各県2回、計8回のCPDセミナー・公開講座及び技術士第二次試験合格者祝賀会を、表-1のメンバーで企画・実施し、四国4県開催での集大成とも言える令和7年10月3日には高知市において“第45回地域産学官と技術士との合同セミナー”を開催しました。

また、4県それぞれ他組織と連携し継続している行事に参加協力を行っています。

2. 令和7年度の活動報告

◆第101回CPDセミナー・公開講座（徳島）

（防災セミナー、令和6年度技術士第二次試験合格者祝賀会併催：徳島会場）

- ・日時：令和7年5月17日（土）
- ・場所：阿波観光ホテル
- ・参加者：65名（うちWeb参加者4名、新合格者3名）

◆第102回CPDセミナー・公開講座（愛媛）

（防災セミナー、令和6年度技術士第二次試験合

格者祝賀会併催：愛媛会場）

- ・日時：令和7年6月7日（土）
- ・場所：えひめ共済会館
- ・参加者：64名（うちWeb参加者7名、新合格者4名）

表-1 令和7年度事業委員会名簿（敬称略）

役職名	氏名	技術部門	県名	勤務先
委員長	谷脇 準藏	建設	香川県	五洋建設㈱
副委員長	正岡 久典	建設、応用理学	愛媛県	共立工営㈱
副委員長	大西 誠一	建設	高知県	㈱ロイヤルコンサルタント
委員	大村 史朗	建設	徳島県	四国建設コンサルタント㈱
委員	花岡 史恵	建設	徳島県	㈱エフ設計コンサルタント
委員	山村 猛	建設	徳島県	エスシー企画㈱
委員	片山 順一	機械	香川県	㈱石垣
委員	田岡 靖紀	衛生工学	香川県	㈱四電工
委員	豊嶋 以長	建設	香川県	豊嶋技術士事務所
委員	丸山 正	建設	香川県	青葉工業㈱
委員	山地 健二	上下水道	香川県	㈱フソウ
委員	吉田 智紀	機械	香川県	㈱石垣
委員	仙波 正司	農業	愛媛県	共立工営㈱
委員	藤田 耕二	建設、森林、応用理学	愛媛県	国土防災技術㈱
委員	増田 信	建設、応用理学	愛媛県	㈱愛媛建設コンサルタント
委員	松村 法行	森林、応用理学	愛媛県	大日本ダイヤコンサルタント㈱
委員	岡林 弘憲	建設	高知県	都市開発コンサルタント㈱
委員	小川 修	建設、上下水道	高知県	四国建設コンサルタント㈱
委員	河野 一郎	建設	高知県	セントラルコンサルタント㈱
委員	下村 昭司	建設	高知県	㈱ワタリコンサルタント
委員	中根 久幸	建設、応用理学	高知県	田村ボーリング㈱
委員	西川 準二	建設	高知県	㈱アンプル
委員	松本 洋一	建設	高知県	㈱第一コンサルタンツ
委員補佐	石垣 孝行	上下水道	香川県	㈱総合コンサルタンツ
委員数 24名（委員補佐 1名含む）				

◆第103回CPDセミナー・公開講座（高知）

（防災セミナー、令和6年度技術士第二次試験合格者祝賀会併催：高知会場）

- ・日時：令和7年6月20日（金）
- ・場所：高知共済会館
- ・参加者：92名（うちWeb参加者13名、新合格者2名）

◆第 104 回 CPD セミナー・公開講座（香川）
（四国本部年次大会/防災セミナー、令和 6 年度技術士第二次試験合格者祝賀会併催：香川会場）

- ・日時：令和 7 年 7 月 14 日（月）
- ・場所：ホテルパールガーデン
- ・参加者：77 名（うち Web5 名、新合格者 3 名）

◆第 105 回 CPD セミナー・公開講座（高知）
（防災セミナー、修習技術者支援セミナー併催）

- ・日時：令和 7 年 11 月 21 日（金）
- ・場所：高知城ホール
- ・参加者：82 名（うち Web 参加 8 名）

◆第 106 回 CPD セミナー・公開講座（徳島）
（防災セミナー併催）

- ・日時：令和 7 年 11 月 22 日（土）
- ・場所：とくぎんトモニプラザ
- ・参加者：36 名（うち Web 参加 8 名）

◆第 107 回 CPD セミナー・公開講座（愛媛）
（愛媛例会・防災セミナー、修習技術者支援セミナー併催）

- ・日時：令和 7 年 12 月 5 日（金）－6 日（土）
- ・場所：松山市男女共同参画推進センターCOMS
- ・参加者：セミナー44 名（うち Web 参加 11 名）

◆第 108 回 CPD セミナー・公開講座（香川）
（防災セミナー併催）

- ・日時：令和 7 年 1 月 22 日（木）
- ・場所：サンポートホール高松
- ・参加者：セミナー50 名（うち Web 参加 16 名）

◆第 45 回地域産学官と技術士との合同セミナー
（高知）

- ・日時：令和 7 年 10 月 3 日（金）
- ・場所：高知会館
- ・参加者：184 名（うち Web 参加 39 名）

◆令和 7 年度学校防災アドバイザー派遣事業への協力

- ・派遣実績：17 校園、延べ技術士派遣者 42 名

◆香川高等専門学校への「学生のキャリア支援のための出前講座」

- ・令和 7 年：計 3 回、学生 121 名、技術士 44 名

◆「お仕事フェスタ 2025」職業ガイダンスブースへの参加

- ・日時：令和 7 年 3 月 7 日（土）8 日（日）
10：00～16：00

- ・来場者：7 日 50 名、8 日 73 名、計 123 名

◆児童館での理科教室の実施

- ・日時：令和 7 年 10 月 4 日（土）13:00~16:00
- ・参加者：17 名

3. 令和8年度の事業計画

令和 8 年度は、各県 2 回計 8 回の CPD セミナー・公開講座を継続し開催する予定です。

社会貢献事業としての出前講座、防災減災に向けた啓発活動における他機関との連携による地域活動、愛媛県専修学校連合会主催の「お仕事フェスタ」にも継続して共同参加する予定です。

更に、初の試みとして中国本部と共同し「技術士業務開業研修会」の開催を松山市で実施する予定です。

令和 4 年度の後期より開始した Web システムでの同時配信による全国からの参加者も着実に増加していることから更に講演内容等に充実を図って行きたいと考えています。

4. 事業委員会の実施報告

令和 7 年度も各県幹事を交えた喫緊の課題等について Web 会議において意見交換を実施した。

【調整内容の骨子】

- ①諸物価高騰に伴う事業収支への対応
- ②案内文の統一表記
- ③協賛団体所属非会員への呼びかけ
- ④セミナー企画運営上の注意点

5. おわりに

令和 7 年度の事業委員会活動は、会員の皆様方のご支援・ご協力によりまして、予定どおり執り行うことができました。改めて御礼申し上げます。

広報委員会報告

四国本部広報委員会
委員長 岩佐 隆
IWASA Takashi



1. 活動方針と令和7年度の活動報告

広報委員会の活動は、四国本部会報「PE しこく」の定期発行とホームページの充実を軸として、四国本部技術士の研究・業績・貢献を、広く社会に広報することを基本方針としています。この方針の基に、令和7年度においては、以下のメンバーで広報活動に取り組みました。

【令和7年度広報委員会メンバー】

委員長：岩佐 隆 (愛媛県)
副委員長：西沢 尚之 (香川県)
委員：菊池 昭宏 (徳島県)
大原 隆司 (香川県)
朝倉 光司 (香川県)
豊嶋 以長 (香川県)
小椋 匡 (愛媛県)
筒井 秀樹 (高知県)
國土 新彦 (高知県)
野並 清人 (高知県)

【令和7年度の主な活動内容】

- 1) 四国本部会報 Vol.29 (R7.7 月) 発行
Vol.30 (R8.3 月) 発行
- 2) ホームページの運営
- 3) 月刊技術士への協力・連携及び統括本部 HP への CPD 行事等予定掲載
- 4) 月刊技術士への四国本部会員の掲載
 - ①R7.5 月号：[活躍する技術士]「技術士は私の誇り」丸山 正
 - ②R8.3 月号：[社会への発信]「災害時支援活動計画に係る地域本部における防災支援の取り組みについて」天羽 誠二、持田 拓児 (九州本部)、城戸 寛 (北海道本部)
 - ③R8.4 月号：[活躍する技術士]「技術士として 20 年目の節目を迎えて」佐藤 悦史

- 5) 四国本部技術士第二次試験合格者祝賀会・修習技術者支援セミナー等における「(公社)日本技術士会四国本部の紹介」

2. 会報の発行について

四国本部の会報「PE しこく」は、夏と冬の年 2 回発行しています。

そして、発行までのスケジュールを定め、そのスケジュールに則り、皆様に論文募集案内を行います。

ちなみに、今回の Vol.31 に関するスケジュールは次の通りでした。

- ①投稿のご案内 ⇒ 4 月下旬
- ②投稿申し込み締め切り ⇒ 5 月中旬
- ③原稿締め切り ⇒ 6 月中旬
- ④原稿最終校正 ⇒ 6 月下旬
- ⑤会報発行 ⇒ 7 月中旬

令和7年度に開催された CPD セミナー・公開講座・防災セミナーは Vol.30 に掲載しました。

会報は、主に「四国本部に在籍する会員・準会員のご投稿による研究・研鑽の成果及び雑感等、各委員会の活動報告、高知県支部(H30 年度設立)活動報告、四国本部と協力関係にある各県技術士会(徳島・香川・愛媛)の活動だより」等で構成しています。

また、各県技術士会に所属する非会員技術士等については、「四国本部会員の紹介」という形で投稿ができるものとしています。

これらの投稿原稿に加えて、Vol.3 から、各県持ち回りのインタビュー形式による「四国発技術士紹介」を、Vol.11 から、神原元広報委員のエッセイからバトンを繋いでいく「会員リレーエッセイ」を掲載しています。

会員の皆様にもそのうちバトンが届くと思いますので、その節はよろしくお願いします。

3. 広報委員会の活動

(1)委員会

広報委員会は、新型コロナウイルス感染対策で始めた Web 会議システムでの委員会を議題案件により適用しています。

◆令和7年度 広報委員会開催結果

- ・第1回：令和7年4月17日（Web）
- ・第2回：令和7年9月27日（四国中央市）
- ・第3回：令和7年12月5日（松山市）

【議事内容】

- 1)「PE しこく」の掲載内容について、
7月発行→高知県支部活動報告及び各県技術士会だより、各委員会報告
3月発行→CPDセミナー等行事報告
- 2)令和8年度の事業計画（案）
 - ①「PE しこく」の発行は年2回とし、7月及び1月に発行する。
※会報への投稿者が増える仕掛け作りを行うなどして、会報の内容を充実させる。
 - ②各委員会、事務局と連携してホームページのコンテンツを充実させるとともに有効利用を図る。
 - ③各種行事の実施にあたり、主管委員会と連携して各県のマスコミ機関への広報を強化し、一般市民等への参画を促す。
 - ④統括本部との「合同広報委員会」を通じて月刊技術士への協力を行うとともに、新たな広報のあり方について検討を行う。
- 3)「PE しこく」の論文募集案内（案）



写真-1 第2回広報委員会の様子

(2)PR TIMES

統括本部では、広報戦略の一環として、令和6年から、プレスリリース配信サービス「PR TIMES」という媒体を活用した広報活動を展開しています。

内容としては、技術士による社会貢献活動をメディア関係者へ発信し、日本技術士会の記事やインタビューでの活用を促すことで、メディア露出の増加による「技術士の知名度向上」を狙ったものです。

そして、(一社)愛媛県専修学校各種学校連合会が主催する「お仕事フェスタ 2026」への技術士ブースの出展について投稿したところ、インターネットラジオ局や全国ラジオ局に向けて情報を届けているメディアから取材申し込みがありました。

今年度も継続して、配信記事候補の募集をしていますので、社会貢献活動等ありましたら、広報委員まで情報提供をお願いします。



写真-2 お仕事フェスタでの技術士ブースの様子

4. 今後の広報委員会の活動

令和7年度は、四国中央市「紙産業技術センター」及び松山市「男女共同参画センターCOMS」で委員会を対面により開催することができました。

当委員会では、今後も「PE しこく」および、四国本部ホームページのコンテンツを充実させて、四国本部の広報強化に努めていく所存です。

さらに、他の委員会活動と連携しながら、私たち技術士（技術士会）の認知度を上げ、社会貢献につながることに資するべく、広報活動を展開していこうと考えています。

今後とも、皆様から広報活動全般に関わるご意見や、ご指導をいただければ幸いです。

修習技術者支援委員会報告

修習技術者支援委員会

委員 一宮 礼人

ICHIMIYA Ayato



1. はじめに

修習技術者支援委員会の活動は、修習技術者をはじめとした技術士を目指す全ての技術者に対し、技術士に必要なコンピテンシーの理解・獲得・向上を支援することを目的とし、技術士制度や IPD（初期専門能力開発）に関する各種セミナー開催等の活動を行っています。

本委員会は、四国各県から選出された委員で構成されています。

【令和7年度委員会構成】（敬称略、順不同）

委員長	： 藤本 耕次	（香川県）
副委員長	： 藤本 憲洋	（愛媛県）
副委員長	： 横山 成郎	（高知県）
委員	： 一宮 礼人	（徳島県）
	平野 嘉久	（徳島県）
	延谷 磨	（徳島県）
	太田 昌秀	（香川県）
	新家 研蔵	（香川県）
	友安 啓介	（香川県）
	松田 靖博	（香川県）
	吉村 和司	（愛媛県）
	木下 尚樹	（愛媛県）
	井上 博喜	（愛媛県）
	宮崎 博志	（愛媛県）
	佐川 徳和	（高知県）
	松本 直	（高知県）

2. 令和7年度活動方針

(1) 修習技術者支援活動

- ①修習技術者向けのセミナーを各県で開催
- ②修習ガイドブック第3.1版をセミナーに反映
- ③各県支部・技術士会活動への協力、連携

(2) JABEE 認定課程教員・在校生へ技術士制度説明

- ①技術士制度説明会の開催
- ②試験業務支援、青年技術士交流委員会との連携による技術士制度普及活動

3. 令和7年度活動報告

(1) 修習技術者支援委員会

1) 第41回修習技術者支援委員会（参加12名）

日時：令和7年9月10日（水）

場所：Web会議（Zoom ミーティング）

議題：①令和6年度事業確認

②令和7年度事業計画・スケジュール

③その他 統括本部修習技術者支援委員会、修習技術者発表全国大会、インフラテクコンワーキンググループ 他

1) 第42回修習技術者支援委員会（参加11名）

日時：令和8年2月18日（水）

場所：Web会議（Zoom ミーティング）

議題：①令和7年度事業進捗

②令和8年度事業計画・スケジュール

③その他 委員会内資料共有、令和8年度委員会体制 他

(2) 修習技術者支援セミナー

1) 第58回修習技術者支援セミナー（高知）

日時：令和7年10月18日（土）

場所：株式会社第一コンサルタンツ

研修棟内タイガーホール

参加：15名

内容：

①講義「技術士及び技術士制度について」

講師：佐川 徳和 委員

②修習事例発表

矢野川 稔 氏（建設部門）

③講義「業務事例からコンピテンシーを理解する」

講師：横山 成郎 委員

2) 第 59 回修習技術者支援セミナー（愛媛）

（例会と同時開催）

日時：令和 7 年 12 月 5 日（金）

場所：松山市男女共同参画推進センター

参加：40 名

内容：講義「最近の技術士試験と修習のあり方」

講師：井上 博喜 委員

3) 第 60 回修習技術者支援セミナー（徳島）

日時：令和 8 年 1 月 31 日（土）

場所：あわぎんホール 5F 会議室 6

参加：24 名

内容：

①講義「技術士試験と修習のあり方について」

講師：平野 嘉久 委員

②技術士第二次試験合格者発表

細野 和博 氏（建設部門）

③修習技術者による発表

新矢 直士 氏（情報工学部門）

④グループディスカッション

修習技術者支援セミナーの内容など意見交換

(3) JABEE 認定課程教員・学生向け「技術士制度説明会」

1) 日時：令和 7 年 4 月 24 日（木） 15:20～16:00

場所：徳島大学 共通講義棟 4 階 K407 号室

参加：3 年生 約 100 名

内容：講義「術士及び技術士制度について」

講師：平野 嘉久 委員

2) 日時：令和 7 年 10 月 30 日（木）

場所：高知工科大学

参加：21 名

内容：

①講義「日本技術士会四国本部の活動紹介」

講師：横山 成郎 委員

②講義「技術士及び技術士制度について」

講師：松本 直 委員

3) 日時：令和 7 年 11 月 6 日（木）

場所：愛媛大学 農学部

参加：学生 34 名

内容：

①講義「未来を創る～技術士制度入門」

講師：藤本 憲洋 委員

②講義「技術士の受験とそのメリット」

講師：中村 希久帆 委員

③ミニゲーム、質疑応答

(4) 修習技術者発表年次大会全国大会

日時：令和 7 年 11 月 22 日（土）

四国本部選出 矢野川 稔氏 最優秀賞受賞
（株式会社第一コンサルタンツ所属）

4. おわりに

修習技術者支援委員会では、引き続き修習技術者（第一次試験合格者、JABEE 認定課程修了者）を対象に、技術士としてふさわしい能力の獲得と資質の形成を支援する活動を実施していきます。

今後の修習技術者支援委員会の活動に引き続きご協力ご支援の程よろしくお願い致します。

防災委員会報告

四国本部防災委員会
委員長 木村 一成
KIMURA Kazunari



1. はじめに

近年、日本各地で震度5クラスの地震が発生しています。2025年度には、2025年6月から9月にかけては鹿児島県のトカラ列島で群発地震が継続し、7月3日には最大震度6弱の地震が発生しました。また、夏場には毎年のように多くの地域で豪雨が発生しており、「線状降水帯」という言葉も2021年から始まった気象庁からの発生情報や予測情報の提供によりおなじみの用語となりました。最近では、

四国では、2025年3月23日に今治市で焼失面積が約442ヘクタールに達する大規模な山林火災が発生しました。3月31日には延焼がほぼ収まり鎮圧宣言が発表されましたが、完全に鎮火が発表されたのは4月14日でした。これは愛媛県の山林火災としては統計を開始した1989年以降最大の被害となりました。

最近では様々な防災情報が公開・提供されていますが、情報が多すぎても混乱を招きます。普段から自分に必要な情報を選択できるような防災への向き合い方が大切です。

私たち防災委員会は、四国内での防災講演会や見学会などの事前防災活動に加えて、防災支援委員会や他地域本部からの情報収集に基づく防災情報の共有などの防災活動を継続的に展開しています。

ここでは、2025年度（令和7年度）の四国本部防災委員会の活動について報告します。

2. 2025年度の活動報告

(1) 防災委員会の開催(WEB)

2025年度の防災委員会は23名の委員で構成されており、全体での委員会はWEB開催で1回実施しました。

委員会での打合せ内容としては、四国内での行

事である各県での防災講演会や見学会の準備状況などの確認、一般の方々を対象とした防災イベントへの参加計画の確認を行いました。また、防災支援委員会（統括本部）主催のイベント紹介、全国防災連絡会議、技術士全国大会の予定確認、他地域本部活動状況などの報告などを行いました。

(2) 防災見学会・意見交換会(香川)の開催

(2025年11月16日(日))

2025年度の防災見学会は、香川県高松市生島町下笠居地区の防災訓練に参加する形で開催しました。

香川県では平成16年の台風に伴う高潮災害を受けて護岸工事などが進められており、見学会開催地である下笠居地区でも小坂護岸が整備されています。見学会では、まず最初に地元住民の方と一緒に護岸構造物や水門、周辺地の状況などを確認しました。



写真-1 小坂護岸、水門の現地見学

現地見学後には、下笠居中学校の体育館で実施された下笠居地区の防災訓練に参加した。この防災訓練では、市職員や消防署員、地区の防災部会などの指導で下記に示すような様々な防災訓練が実施されていました。

- ① 救急救命訓練
- ② 避難所開設訓練
- ③ 間仕切り・段ボールベッド設置訓練
- ④ 非常食試食体験
- ⑤ 防災グッズ展示見学



写真-2 非常食試食体験の様子

防災訓練終了後には、下笠居コミュニティセンターに移動して、三井委員による「小坂護岸周辺の高潮・津波対策等について」、飯田委員による「宮池の耐震性について」の2つの防災講演を行いました。

三井委員の講演では、小坂護岸のこれまでの整備状況の整理から、現状は高潮や津波に対して一定の安全性が確保されていることの解説がありました。一方、地震時などには護岸が沈下するリスクが考えられることから、万が一沈下が発生した場合に考えられる避難時などのリスクについて説明がありました。

飯田委員の講演では、防災重点ため池に指定されている農業用ため池である宮池について、現地状況や各種資料から読み取れる安定性や安全上のリスク、決壊時の浸水想定範囲などについて情報提供を行い、今後検討すべき課題についても提案しました。

なお、この講演会には地元住民の方に多くご来場頂き、講演後には地元住民と防災委員を交えた意見交換が活発に行われ、有意義な意見交換の場となりました。



写真-3 講演後の意見交換の様子

(3)防災講演会の開催

各県で5月～7月、11月～翌年1月のCPDセミナー・公開講座の開催に合わせて、以下の防災講演会を開催しました。2025年度は各県で2回ずつ、計8回実施しました。

1)徳島会場(2025年5月17日(土))

演題：『徳島ママ防災士の会 Switch とママ防災士の活動について』

講師：徳島ママ防災士の会 Switch 代表
瀬戸 恵深

2)愛媛会場(2025年6月7日(土))

演題：『自然被害と住み続ける権利 ～能登半島地震を中心に～』

講師：愛媛大学法文学部教授 副学長・ジェンダー協働推進センター長 鈴木 静

3)高知会場(2025年6月20日(金))

演題：『みんなで取り組む地区防災計画 ～南海トラフ地震の被害想定を踏まえて』

講師：香川大学地域強靱化研究センター特命准教授 磯打 千雅子

4)香川会場(2025年7月14日(月))

演題：『被災地から学ぶ ～できる時に、できる人が、できる事をする～』

講師：四国災害ボランティアネットワーク代表
藤井 節子

5)高知会場(2025年11月21日(金))

演題：南海トラフ地震対策で「行政が言えない本

当の話し』

講師：NPO 法人地域の安全を図る会理事長
北川 尚

6)徳島会場(2025 年 11 月 22 日(土))

演題：『大規模災害時における道路ネットワーク
の脆弱性評価の検討』

講師：徳島大学大学院社会産業理工学研究部講師
堀越 一輝

7)愛媛会場(2025 年 12 月 5 日(金))

演題：『災害は“災い”が“害”になると書く』

講師：愛媛大学大学院地域レジリエンス学環客員
教授 越智 正昭

8)香川会場(2026 年 1 月 22 日(木))

演題：『衛星データを活用した斜面・インフラ等
モニタリング』

講師：日本工営(株)基盤技術事業本部理事
徳永 博

(4)防災イベントへの参加(高知)

2025 年度には、昨年度に引き続き、高知での防
災イベントへのブース出展を行いました。

1) 令和7年度高知県総合防災訓練・地域防災フェ スティバル(防災フェスタ in 高知 2025)

2025 年 6 月 1 日(日)

高知市で「令和 7 年度高知県総合防災訓練・地
域防災フェスティバル（防災フェスタ in 高知
2025）」が開催されました。昨年度に引き続き防災
委員会として 2 回目のブース出展を行いました。
このイベントは高知県主催の高知県総合防災訓練
に併せて開催される地域防災フェスティバルで、
一般住民が参加でき、楽しみながら防災への意識
を高め、自主防災活動の推進や地域での防災意識
の高揚が目的とされています。

国、市町村、消防、警察、自衛隊等の防災関係
機関、民間企業などによる全45ブースの展示があ
りました。

防災委員会ブースでは今年度のテーマを「液状
化」として、展示しました。



写真-4 展示ブースの外観

今回の展示内容は、以下の通りです。

- ① 技術士の紹介パネル
- ② ハザードマップ・災害事例紹介コーナー
- ③ 南海トラフ立体視ポスター
- ④ 液状化の簡易模型実験コーナー
- ⑤ よろず相談コーナー
- ⑥ 各種パンフレット・ノベルティグッズ配布



写真-5 液状化の簡易模型実験コーナー



写真-6 よろず相談コーナー

イベントの開催時間は10時～15時の5時間で、
子供を含めたブースへの来訪者は約 200 人でした。

高知県は南海トラフ地震への意識が高い住民が
多く、ブースへ多数の来場者がありました。今回

テーマにした「液状化」については、言葉としては知っていても自分に関係あるかどうかを知らない方が多かった印象です。様々なリスクを知っておくことは防災上大切なことだと思います。

2) 防災フェスタ 2025～地域をつなぐ安全の輪～

(2025 年 10 月 4 日(土))

2025 年 10 月 4 日～5 日に香南市において、株式会社技研製作所主催の「防災フェスタ 2025～地域をつなぐ安全の輪～」が開催されました。防災委員会は、10 月 4 日にブースを出展しました。

この防災フェスタは、体験や展示を通じて災害に備える大切さを楽しみながら体感することを目的としており、企業や公共団体などによる災害関連の展示が 14 ブース、飲食関係が 8 ブース展示していました。展示ブースの中では、放水体験や起震車体験などが特に人気で、御当地グルメ等の飲食店にも行列ができていました。主催者の報告では、2 日間の来場者は約 6,000 人にのぼり、イベント全体として盛況であったとのことでした。

防災委員会のブースでは、6 月の高知県主催の地域防災フェスティバルと同じく、液状化を展示テーマとしました。展示ブースには技術士の活動紹介に加え、液状化実験、ハザードマップ等の説明、よろず相談等のコーナーなどを設けました。



写真-7 展示ブースの様子

(5) 防災支援委員会との連携

1) 防災支援委員会への参加

令和 7 年度も例年通り、対面会議（東京）と WEB 参加を併用した委員会が毎月 1 回開催されました。参加者は統括本部、各地域本部の防災委員長、技

術士各部門の代表者、ワーキンググループのメンバーやオブザーバーから構成されており、毎回 30 名程度が参加しています。防災イベント等への参加にあたっては、開催地域在住の委員を中心に活動していますが、定期的な情報交換、意見交換の場として活用されています。

令和 7 年度は田村前委員長から渡邊委員長への委員長の交代がありました。

2) 全国防災連絡会議への参加(WEB)

2025 年 9 月 1 日（月）、第 21 回全国防災連絡会議が開催されました。今回のテーマは「大規模災害発生後における土業連携について」でした。

前半では、渡邊委員長による 2024 年度の防災支援委員会の活動報告と 2025 年度の活動計画の説明に続き、各地域本部の委員長と関東甲信県支部防災連絡会議より活動報告がなされました。その後、渡邊委員長より災害復興まちづくり支援機構の活動について説明がありました。

後半では、今回の会議テーマに沿って、「大規模災害発生後における土業連携と技術士会の役割」として、近畿本部の小島委員長から、能登半島地震の被災者支援の相談会などを開催している近畿災害対策まちづくり支援機構の活動などについて報告がありました。

全国防災連絡会議は WEB 開催ですが、平日開催であることもあり四国からの参加者は少ない状況です。四国からも多くの技術士が参加してもらえよう周知をしていきたいと思っています。

3. 2026 年度の活動について

2026 年度は例年通り、各県で様々な内容の防災講演を実施します。今年度の防災見学会は徳島県で秋ごろに開催予定で、現在準備中です。

2024 年度から継続参加している高知県の防災フェスタは、今年度は台風襲来のため中止となりましたが、一般の方との接点となるブース出展の機会を探したいと考えています。

今後とも防災委員会の活動にご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

試験業務支援委員会報告

試験業務支援委員会

委員長 加藤 均

KATO Hitoshi



1. 令和7年度技術士試験の実施概要

技術士試験は、平成14年度から第一次試験・第二次試験とも香川県高松市で開催されています。近年は受験者数や会場事情により複数会場が設けられており、令和7年度は第一次・第二次試験ともに延べ2会場で実施しました。

令和7年度の技術士試験の実施概要は以下のとおりです。



技術士試験四国会場(第一次試験:高松大学)

(1) 技術士第二次試験の実施概要

令和7年度技術士第二次試験は、4月1日より受験申込書の受付を開始し、試験を7月20日(日)・7月21日(月・祝)に実施しました。

四国会場における技術士第二次試験の受験者数は、新型コロナ感染ピークであった令和2年度の減少から回復後、概ね横ばい傾向が続いており、令和7年度は829人となりました。

最近の技術士第二次試験の受験者数の実績を、全国と四国会場を比較して表-1.1に示します。

表-1.1 技術士第二次試験受験者数(実績)

年 度	全 国 (人)	四国会場 (人)
令和7年度	24,135	829
令和6年度	23,043	833
令和5年度	22,877	819

第二次試験の筆記試験合格者発表は11月4日に行われ、合格者に対して口頭試験が12月初旬～令和8年1月中旬の間に東京都で行われました。口頭試験の合格発表は令和8年3月13日に行われ、四国会場受験者は91名が合格し、合格率は11.0%といずれも前年より増加しました。

(2) 技術士第一次試験の実施概要

令和7年度技術士第一次試験は、6月11日より受験申込の受付を開始し、試験を11月23日(日)に実施しました。

四国会場における技術士第一次試験の受験者数は、第二次試験と同様、新型コロナ影響の緩和後は概ね横ばい傾向にあったものの、令和7年度は605人と減少しました。

最近の技術士第一次試験の受験者数の実績(全国および四国会場)を表-1.2に示します。

表-1.2 技術士第一次試験受験者数(実績)

年 度	全 国 (人)	四国会場 (人)
令和7年度	17,013	605
令和6年度	16,666	688
令和5年度	16,631	684

第一次試験の合格発表は、令和8年2月24日に行われ、四国会場受験者は合格者が172名、合格率は28.4%となっており、いずれも前年より減少しました。

2. 令和7年度の試験業務支援委員会の活動実績

試験業務支援委員会は、技術士試験業務への協力・支援および技術士試験制度の普及を図ることを主な目的として活動を行いました。

(1) 技術士試験業務への協力・支援活動

令和7年度の技術士第二次・第一次試験は、昨年より1箇所減って2箇所の会場（第二次試験：サン・イレブン高松、英明高校、第一次試験：四電総合研修所、高松大学）で行いました。

会場数は減りましたが、室数が多い会場や初めての会場など課題もありましたが、四国本部内での経験者による運営体制構築や技術士試験センターとの緊密な情報連携を行った結果、試験当日は混乱やトラブルはなく、計画どおりに試験を実施することができました。

次に、四国では令和8年度第一次試験から第二試験地として愛媛県松山市が設置されることになりました。これは、令和8年1月から改定される受験手数料及び登録手数料見直しの項目として受験者の利便性向上を図るため全国大で進められている一環のものです。設置検討では、栗本事務局長、委員会メンバーで打ち合わせを行うとともに、愛媛のメンバーである岩佐副本部長、河端委員が実際に香川県試験会場での第一次試験にて実施体験を行いました。また、今年の第二次試験も同様に実施体験を行う予定です。

(2) 技術士試験制度の普及・啓発活動

教育機関等への技術士試験制度の普及・啓発活動については、修習技術者支援委員会・青年技術士交流委員会等と連携をとりながら実施しており、令和7年度も、各委員会主催行事への共同参加、各委員による地元大学・高専への出張授業等を行いました。

3. 今後の試験業務支援委員会の活動展望

試験運営については、委員会内外で学生や若手技術者からの技術士や試験制度への関心が寄せられているなか、今年の第一次試験から試験地が2箇所が増えることを踏まえ、これまで以上に四国本部内及び技術士試験センター、委託している外部専門機関等と密なコミュニケーションを図り、引き続き試験業務の確実な運営を行います。

また、これまで同様、四国管内で自治体、大学、地域住民向けに諸活動を展開している、修習技術者支援委員会・青年技術士交流委員会・男女共同参画推進小委員会のメンバーとの連携を維持強化しながら、試験制度の普及・啓発活動を担っていきます。

4. 試験業務支援委員会メンバー等

令和7年度の試験業務支援委員会のメンバーは、当初の10名から期中で2名増えて以下の12名となりました。

委員長	；加藤 均	（香川県）
副委員長	；三木 公司	（香川県）
副委員長	；渡辺 裕之	（香川県）
委員	；亀田 進	（香川県）
委員	；大津 洋暁	（香川県）
委員	；北山 和宏	（香川県）
委員	；工藤 宏樹	（徳島県）
委員	；河端 悟司	（愛媛県）
委員	；國土 新彦	（高知県）
委員	；曾我部 敏彦	（高知県）
委員	；水野 隆之	（高知県）
オブザーバー	；森實 良子	（愛媛県）

引き続き、社会貢献の思いと経験豊かな委員の協力により、確実な試験業務運営と技術士・試験制度の普及活動を進めていきます。また、各県委員による活動から得られた情報を関係委員会にも提供するなど、四国本部全体の活性化にも貢献したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

青年技術士交流委員会報告

青年技術士交流委員会
委員長 西村 紘寛
NISHIMURA Hironobu



1. はじめに

青年技術士交流委員会では、四国本部の若手技術者が中心となり、以下の目的と方針に沿って活動している。本稿では、令和7年度に実施した活動内容について報告する。

活動目的

四国地域における若手技術士を中心とする技術者ネットワークを構築し、委員相互の能力向上を果たすとともに、技術士としての職能を地域社会に幅広く浸透させ、技術士の地位向上を果たすために活動を行う。

活動方針

方針1：青年技術士としての幅広い能力向上

方針2：四国地域の青年技術士相互の交流

方針3：地域との交流を通じた社会貢献

2. 交流会活動

技術士としての幅広い能力向上、青年技術士相互の交流を目的として、四国4県で各1回の計4回の交流会の企画・運営を行った。

2.1 第42回青年技術士交流会(香川)

実施日：令和7年4月19日

場 所：(株)四電技術コンサルタント本社

演 題：『自身のキャリアプランについて考えてみよう』

講 師：キャリアコンサルタント 白鳥千寿氏

内 容：技術士取得後のキャリアについて、今後の仕事や私生活を含めた自己研鑽等のプランニングについて講演を頂いた。これまでの経験に対する振り返りや、これからの理想像を考えさせられる内容であった。

その後、委員会の活動方針でもある社会貢献活動として参加している、香川大学開催の「かがわけん科学体験フェスティバル」へのブース出展のネタ出しを行った。投票の結

果、「サイフォン作ってくださいふぉん!!」が選ばれ、このネタを基に今年の科学体験フェスティバルへの準備を進める運びとなった。



写真-1 講演を聴講する参加者

2.2 第43回青年技術士交流会(愛媛)

実施日：令和7年5月31日

場 所：愛媛大学

演 題：『総合知を活かすという選択』

講 師：愛媛大学研究・産学連携推進機構
特定准教授 石原裕香氏

内 容：産業界から大学へと転じた講師の先生の越境キャリアや、学生・地域との実践を通じて見えてきた「総合知」の可能性について講演を頂いた。技術者としてどう挑戦していくかを考えさせられる内容であった。その後、学生BPOである「学チャレ合同会社」の学生を交えたワークショップにおいて、地域や実務の課題を題材として、「総合知」の活用方法や協働の可能性について議論を行った。



写真-2 ワークショップにて議論中

2.3 第44回青年技術士交流会(高知)

実施日：令和7年9月20日

場 所：高知県吾川郡仁淀川町

演 題：『ようこそ仁淀川町へ！』

講 師：ヒュッテ仁淀 吉田葵氏

内 容：委員会の活動方針でもある、地域との交流を通じた社会貢献を行っている。

今年は、仁淀川町で地域活性化に取り組まれている講師より、町の現状や課題、これまでの活動等について講演を頂いた。また、新たな構想である民泊可能な“古民家改修”をテーマにし、ワークショップ形式で議論を行った。“古民家改修”は、続編として令和8年度の交流会に向けて企画を進めている。



写真-3 ワークショップにて古民家改修計画(案)発表

2.4 第45回青年技術士交流会(徳島)

実施日：令和7年11月1日

場 所：徳島県小松島市

演 題：『建設現場における ICT 施工について』

講 師：コマツカスタマーサポート(株)森大氏

内 容：昨今、世界中で IT 化が加速度的に進展しており、我々の生活には不可欠である。

今回の交流会は、フィールドを提供して頂いた徳政副委員長を中心とした企画であり、

“世界のコマツ”から講師をお招きし、ICT施工をめぐる話題を提供して頂いた。その後、ICT重機と従来の重機の実演にて参加者自ら操縦する体験を行った。



写真-4 重機の操縦体験(参加者は本気モード)

3. 地域との交流を通じた社会貢献活動

3.1 高知県大川村との交流

実施日：令和8年1月24～25日

内 容：今年で5年目となる高知県大川村との交流の報告を行う。今年は、毎年4月に開催されるさくら祭り会場の一部となるウッドデッキの改修を行った。当日は寒波による降雪の影響で参加者が少なかったが、2日間にわたって何とか再構築まで行えた。



写真-5 作業直前の参加者集合写真

3.2 かがわけん科学体験フェスティバル

実施日：令和7年11月9日

場 所：香川大学幸町キャンパス

内 容：前述の『サイフォン作ってくださいふぉん!!』をテーマとして出展した。目的は、子どもたちの工学的探究心を喚起することであり、身近な材料で簡単に工作しサイフォン原理を体験的に学べる内容とした。



写真-6 当日の実施時の様子

4. おわりに

青年技術士交流委員会は、概ね45歳以下(四国本部青年独自ルールで実質50歳を定年)の有志の集まりである。昨年7月に9名が委員を卒業した。一度に9名が抜けた後の補充がこれからの青年委員会の課題である。四国4県の若手技術士が自由に楽しく成長と交流を行える組織である。興味がある方は是非一緒に活動しましょう。

最後になりましたが、今後とも青年技術士交流委員会の活動に対してご支援・ご指導をよろしくお願い致します。

倫理小員会報告

倫理小委員会
委員長 丸山 正
MARUYAMA Tadashi



1. はじめに

倫理小委員会は、四国本部会員及び非会員・技術系学生を含めた技術者を対象に、「技術者倫理」を広く啓発することを目的として、技術者倫理セミナー開催及び技術系大学・高等専門学校への講師派遣等の活動を行っています。本委員会は、四国各県から選出された委員で、以下の 12 名で構成されています。(令和 8 年 4 月 21 日時点)

【委員会構成】(敬称略、順不同)

委員長	丸山 正	(香川県)
副委員長	横山 成郎	(徳島県)
委員	佐藤 悦史	(徳島県)
	森田 朗	(徳島県)
	浅野 彰洋	(香川県)
	池谷 聖	(香川県)
	友安 啓介	(香川県)
	友近 榮治	(愛媛県)
	東 豊一	(愛媛県)
	藤本 憲洋	(愛媛県)
	中根 久幸	(高知県)
	松本 直	(高知県)

2. 令和 7 年度活動方針並びに主な活動内容

令和 7 年度は、以下のとおりです。

(1) 技術者倫理の啓発活動

- ① 技術者倫理セミナーを年 1 回開催し、技術者倫理の啓発を行います。
- ② CPD セミナーや各県技術士会から技術者倫理に関する講演依頼があった場合は、講師派遣等の協力を行います。

(2) 大学及び高専の技術者倫理教育への講師派遣

- ① 四国の大学及び高専から依頼があった場合は、講師を派遣します。

(3) 技術者倫理の既往文献調査及び研究

- ① 技術者倫理に関する既往文献を紹介し、倫

理観を共有します。

- ② 統括本部並びに他の地域本部とのネットワークづくりを行います。
- ③ 勉強会の一環として、技術者倫理研究会例会に参加し、技術者倫理に関する継続研鑽を図ります。

3. 令和 7 年度活動報告

(1) 倫理小委員会

1) 第 17 回倫理小委員会

日時：令和 7 年 8 月 23 日(土)11:00～12:00

場所：対面会議

出席者：9 名

内容：令和 5 年度基本方針について検討・見直し、愛媛大学への講師派遣の継続について今後の継続審議事項とする

2) 第 18 回倫理小委員会

日時：令和 8 年 2 月 26 日(木)18:00～19:00

場所：Web 会議

出席者：12 名

内容：令和 7 年度実施事項について確認
令和 8 年度基本方針について協議
令和 8 年度技術者倫理セミナーのあり方などについても協議

(2) 大学における倫理講義

日時：令和 7 年 6 月 24 日(火)～7 月 29 日(火)

場所：愛媛県松山市 愛媛大学農学部

参加者：2 学年(180 名)、3 学年(10 名)、
4 学年(3 名)、学生 193 名

内容：「技術者の初歩：技術者の倫理」

講師：倫理小委員会副委員長 横山 成郎氏

第 1 回 技術者と倫理

第 2 回 コンプライアンス

第 3 回 予防倫理

第 4 回 内部告発と公益通報者保護法

第 5 回 技術者倫理問題と志向倫理

(3)第 11 回技術者倫理セミナー（単独開催）

日時：令和 7 年 8 月 23 日(土)

場所：サン・イレブン高松

参加者：22 名

演題 1：技術者倫の涵養と企業内技術士
～私の研鑽経緯を中心として～

講師 1：中国本部倫理委員会副委員長
長原 基司氏



倫理セミナーの状況

演題 2：若手技術者と考える技術者倫理

講師 2：四国本部倫理小委員会副委員長
横山 成郎氏



グループワークの討議と発表状況

(4)技術者倫理研究会例会参加

1)第 117 回例会

日時：令和 7 年 5 月 13 日(火)18:30～20:30

参加者：倫理小委員会より 4 名 Web 参加

2)第 118 回例会

日時：令和 7 年 7 月 8 日(火)18:30～20:30

参加者：倫理小委員会より 3 名 Web 参加

3)第 119 回例会

日時：令和 7 年 9 月 9 日(火)18:30～20:30

参加者：倫理小委員会より 4 名 Web 参加

4)第 120 回例会

日時：令和 7 年 11 月 22 日(土)13:00～17:00

参加者：倫理小委員会より 3 名会場参加

5)第 121 回例会

日時：令和 8 年 1 月 20 日(火)18:30～20:30

参加者：倫理小委員会より 3 名 Web 参加

6)第 122 回例会

日時：令和 8 年 3 月 10 日(火)18:30～20:30

参加者：倫理小委員会より 5 名 Web 参加

(5)技術者倫理情報連絡会参加

日時：令和 7 年 10 月 25 日(金)

場所：第 51 回技術士全国大会(熊本城ホール)の
関連行事として開催

出席者：倫理小委員会より 3 名会場出席

内容：総括本部倫理委員会活動報告・九州本部活
動紹介、技術者倫理情報交換会(各地域本
部から提案テーマに関する意見交換)

4. おわりに

倫理小委員会では、令和 7 年度末の委員会構成人数が 12 名と徐々にではありますが、構成委員のメンバーを増やす尽力により、委員は増えています。倫理小委員会単独での技術者倫理セミナーの開催は、令和 7 年度において実施しました。今後も Web を活用し、全国規模で行われている技術者倫理研究会例会に参加することで、技術者倫理に関する継続研鑽や技術者倫理の啓発活動を行ってまいります。倫理小委員会では、こうした活動を通じて技術者倫理の知識を深め、啓発活動を進めることで皆様のお役に立ちたい所存です。

熊本城ホールでの技術者倫理情報連絡会では、統括本部の中野智仁理事・倫理委員長より、四国本部から統括本部への活動協力の前向きな依頼がありました。そこで倫理小委員会は、統括本部への活動参加も行なってまいります。

これからも、倫理小委員会の活動に対し、ご協力・ご支援のほど、お願いいたします。

以 上

令和7年度 高知県支部活動報告

四国本部 高知県支部

事務局長 松本洋一

MATSUMOTO Yoichi



令和7年度のトピックスとして、10月3日(金)に四国本部の主管で高知市において、「地域産学官と技術士との合同セミナー」を開催しました。テーマは、「川と暮らし、川と育む～防災・環境・観光が共存する持続可能な河川活用～」です。このセミナーは、地域の皆さんに技術士の存在を知って頂くための取組として日本技術士会が実施しているものです。今回は、南国生活技術研究所代表の黒笹慈幾氏にコーディネーターをお願いし、河川への造詣が深い産学官の講師をパネラーにお迎えしました。セミナーは、流域の人々の暮らしに寄り添う河川管理のあり方について、示唆に富んだ内容となりました。このセミナーのほか、以下のような活動を実施することができました。

1. (公社) 日本技術士会四国本部との共催事業

(1) 第103回 CPD セミナー・公開講座・

防災セミナー

- ・ 開催日時 令和7年6月20日(金)
- ・ 参加者 92名(うちWeb参加者13名、新規合格者2名)
- ・ 講師
CPDセミナー：大岡 航氏
公開講座：谷野宮 竜浩氏
防災セミナー：磯打 千雅子氏

(2) 令和6年度技術士第二次試験合格者祝賀会

(高知会場)

- ・ 開催日時 令和7年6月20日(金)
- ・ 参加者 43名

(3) 第44回青年技術士交流会

- ・ 開催日時 令和7年9月20日(土)
- ・ 参加者 10名

(4) 第45回地域産学官と技術士との

合同セミナー(高知)

- ・ 開催日時 令和7年10月3日(金)
- ・ 参加者 184名(うちWeb参加者39名)
- ・ 講師
基調講演1：渡邊 国広氏
基調講演2：石川 妙子氏
基調講演3：松浦 秀俊氏
基調講演4：黒笹 慈幾氏
・ パネルディスカッション
コーディネーター：黒笹 慈幾氏
パネリスト：産：松浦 秀俊氏
学：石川 妙子氏
官：渡邊 国広氏
日本技術士会：有川 崇氏



第45回地域産学官と技術士との合同セミナー(高知)

パネルディスカッション

(5) 懇親会

- ・ 開催日時 令和7年10月3日(金)
- ・ 参加者 62名

(6) 第58回修習技術者支援セミナー

- ・ 開催日時 令和7年10月18日(土)
- ・ 参加者 15名(うちWeb参加者8名)
- ・ 講師

佐川 徳和氏、矢野川 稔氏、横山 成郎氏

(7) 第 105 回 CPD セミナー・公開講座・

防災セミナー

- ・ 開催日時 令和 7 年 11 月 21 日(金)
- ・ 参加者 82 名 (うち Web 参加 8 名)
- ・ 講師
CPD セミナー：藤塚 哲朗氏
公開講座：藤木 裕二氏
防災セミナー：北川 尚氏

(8) 懇親会

- ・ 開催日時 令和 7 年 11 月 21 日(金)
- ・ 参加者 34 名

2. 高知県支部の独自事業

(1) 高知県支部年次大会

- ・ 開催日時 令和 7 年 6 月 20 日(金)
- ・ 参加者 38 名

(2) 日本海・瀬戸内海・太平洋縦断技術士会

(岡山)

- ・ 開催日時 令和 7 年 10 月 4 日(土)
- ・ 参加者 54 名 (支部からの参加者 4 名)
- ・ 発表者：佐川徳和



日本海・瀬戸内海・太平洋縦断技術士会

(3) (公社)日本技術士会四国本部高知県支部
会報「PEこうち」の配布

- ・ 第 5 号、令和 7 年 6 月発行、6 月配付、
部数：400 部(官公庁及び会員)

(4) 高知県支部ホームページの運用

- ・ 活動計画、活動報告等の情報公発信
<https://www.ipej-shikoku-kochi.org/>

(5) 役員会の開催

- ・ 対面 (Web 併用) で 6 回の幹事会を開催

(6) 第 25 回高知県建設技術研究発表会

- ・ 審査員の推薦
- ・ 開催日時 令和 8 年 1 月 23 日(金)
- ・ 審査員：中根久幸 支部長



河野前支部長の労をねぎらい中根新支部長から花束贈呈

令和 7 年度は、河野前支部長から中根新支部長にバトンタッチしました。世代交代した高知県支部は、河野前支部長が築き上げられた活動基盤をもとに、中根新支部長を先頭にさらなる発展を目指していかねばなりません。事務局として、「組織の柔軟な変化」、さらには「多様な価値観」を取り入れた支部運営ができるよう努めていく所存です。

今後も時代の変化に柔軟に対応しながら、会員同士が学び合い、支え合える環境づくりを進め、次世代へ継続可能な支部活動をつないでまいります。

徳島県技術士会だより

徳島県技術士会
事務局長 佐藤 悦史
SATO Yoshifumi



1. はじめに

徳島県技術士会は、1967 年 8 月に会員数 12 名で発足し、今年（2026 年）で 59 年を迎えました。

現在では、15 部門にわたる 192 名（2026 年 5 月 16 日時点）の会員を擁し、広報、修習技術者支援、出前講座、ホームページ、事業の 5 つの常設委員会ならびに、商工、建設、女性、青年の 4 つの部会から組織されております。また、各委員会及び部会が「技術士」の知名度向上に資する活動を、精力的に行っております。以下、2025 年度における徳島県技術士会の主な活動状況を報告します。

2. 2025(令和 7)年度の主な活動

(1) 定期総会

2025 年 5 月 17 日(土)に、2025 年度 徳島県技術士会定期総会を開催しました。

定期総会出席者は、会員総数 196 名のうち対面参加 38 名、委任状提出者が 101 名となり、合計 139 名の参加となりました。



写真-1 定期総会状況

(2) 広報委員会：会報誌の発刊

徳島県技術士会の会報誌は、1993 年度から創刊

しており、2025 年度は 17 名の会員の執筆により VOL. 33（2026 年 1 月 1 日）を発刊しました。今年も 542 部を製本し、大学、高専、企業、官公庁などへ配布し、弊会の活動状況を紹介しました。

(3) 修習技術者支援委員会：支援講習会

2025 年度は、支援講習会を 4 回開催しました。内容は、出発（出願）セミナー（一般部門）、合格体験発表会、筆記試験対策セミナー、ならびに模擬口頭試験です。総受講者数：70 名、総支援スタッフ：36 名、合計 106 名の参加となりました。

セミナー講師には、技術士受験支援サイト「SUKIYAKI 塾」の管理者であり、この道の先駆者として著名な鳥居直也氏を招聘しました。



写真-2 鳥居先生による説明を熱心に聞く受講者



写真-3 合格体験談発表会状況

(4)出前講座委員会：阿南高専出前講座

阿南高専出前講座は、阿南工業高等専門学校で2010年度から実施しており2025年度で15年目を迎え、これまでに28回の講座を実施してきました。

2025年6月23日に、創造技術工学科建設コースの3年生28名を、2025年6月27日に4年生15名を対象としてグループワーク形式による講座を開催しました。3年生には、『将来の家の周りで起こるかもしれない災害を想像し、意見・思いなどをポストイットに書いて説明しよう。』を、4年生には、『建設分野の職種』『インターンシップについて』『もうすぐ社会人となるために』の3項目をテーマとして、会員延べ33名で実施しました。



写真-4 阿南高専・グループワーク状況



写真-5 学生の発表状況

(5)ホームページ委員会：トップページの更新

ホームページのトップページは3ヶ月の頻度で定期的に更新し、各部門の技術士が交代で、その部門に関する内容を掲載しています。

表-1 徳島県技術士会 HP トップページ

掲載期間 (2025年度)	タイトル	部門(専門)
4月～6月	剣山から次郎笈を望む	応用理学部門 (地質)
7月～9月	徳島市 LED 景観整備作品のご紹介	建設部門 (建設環境)
10月～3月	大川原ウインドファーム(WF)の概要	機械部門 (材料強度・信頼性)

(6)女性部会：四国なでしこ技術サロン

四国なでしこ技術サロンは、2016年度より開催している「阿波なでしこ技術サロン」を日本技術士会四国本部の男女共同参画推進小委員会との連携で、2021年度から「四国なでしこ技術サロン」となり開催しています。

2025年10月18日に、四国なでしこ技術サロン(徳島VOL.6)を、子ども4名を含む参加者37名で開催しました。



写真-6 四国なでしこ・グループワーク状況

(7)商工部会：対面サロン開催

商工部会では、大神子山林の景観整備と有効活用に着目した検討が進められており、2025年9月27日と2026年3月28日の計2回、対面サロンが開催されました。

3. おわりに

徳島県技術士会は、今後も「技術」の交流、「人」の交流を目指し、会員サービスの充実を図るための活動を通じて、地域社会に貢献して行きたいと考えております。2027年9月に、徳島県技術士会は創立60周年行事を予定しています。

これを機に徳島県技術士会が果たすべき責務を再確認するとともに、継続的な社会貢献活動に取り組んでいく所存でございます。 -以上-

香川県技術士会だより

香川県技術士会
事務局長 山地 孝樹
YAMAJI Takaki



1. はじめに

香川県技術士会は、214 名（令和 7 年度）の会員のもと、各種の講演会、見学会などの企画を通して、技術力の向上と相互交流、社会貢献に取り組み、地域社会の発展に寄与しています。

令和 7 年度の主な活動は以下の通りです。

2. 会員の技術力向上と相互交流活動

(1) 総会・講演会の実施

令和 7 年 6 月 17 日(火)に定例の総会、講演会を開催し、会員 65 名の出席を頂くとともに、懇親会（46 名出席）も盛大に開催しました。

今回、加藤会長より、会の活性化と若手の活躍を期待して、“(O)面白いことを、(J)自由に、(T)楽しく” 行う魅力的な勉強会・研究会の立ち上げについての提言があり、これを受けて OJT プロジェクトが創設されました。

講演会では、徳島大学大学院総合科学部社会総合科学科心理健康コース教授 内海千種氏に「災害時の心の変化」と題し、災害が人に及ぼす心理的影響、災害後に起こり得る変化やそれへの効果的な対処の方法について、講演をいただきました。



写真－1 講演会(講師:内海千種氏)

(2) 技術士第二次試験合格祝賀会

令和 6 年度合格者の祝賀会は、(公社)日本技術士会四国本部と共催で、令和 7 年 7 月 14 日(月)に開催しました。参加人数は会場が 73 名、WEB で 5 名の方に参加いただきました。

(3) 見学会

令和 7 年 11 月 26 日(水)に、参加者 28 名で、高知県土佐町の早明浦ダム、香美市アンパンマンミュージアム他にて見学会を実施しました。

早明浦ダムでは、洪水調節容量の増大や放流設備の増設を通じてダムの治水機能向上を図る取り組みとして実施されている早明浦ダム再生事業を見学しました。参加者は現場の規模や技術の高さに感銘を受け、活発な質疑応答を通じて理解を深めることができました。

次に、朝ドラ『あんぱん』のモデルとなり注目されたやなせたかしのアンパンマンミュージアム、山田堰跡公園では「土木神の化身」と呼ばれた野中兼山の遺構探索など盛りだくさんな見学会となりました。(詳細はHP 参照)



写真－2 早明浦ダム再生事業現場見学

(4) 他県技術士会との交流

平成 17 年度より鳥取・島根・岡山・香川・高知の 5 県が参加し、「日本海・瀬戸内海・太平洋縦断技術士会」として相互に交流しています。

令和 7 年度は、令和 7 年 10 月 4 日(土)に岡山県倉敷市を会場に、『歴史と技術の融合～地域から未来を創る～』をテーマに、総勢 40 名が参加して開催されました。各県の技術士による研究・活動発表を行った後、倉敷美観地区周辺にて歴史と技術の融合した街並み散策、川船流しツアーなどが行われました。

当会からは 7 名が参加し、児玉裕美子氏（㈱四電技術コンサルタント）より、「肱川の歴史と未来、かわまちづくりの歩み」と題して発表いただきました。



写真-3 美観地区散策の様子

3. 社会貢献への取組み

(1) 香川県との防災協定に関する活動

香川県と当会は、平成 18 年に「防災支援協定」を締結し、当会では、毎年「支援活動技術士」を県へ申請し登録しています（令和 7 年度は 83 名登録）。

また、毎年、香川県と合同で防災訓練を行っており、令和 7 年度も、岩原廣彦氏（元 香川大学客員教授）を講師にお招きして令和 8 年 1 月 29 日（木）に総勢 28 名が参加し「災害時の心理を知りダイバーシティ&インクルージョンを考える～クロスロードカードを使った机上型訓練～」を実施しました。

災害発生時に、次々といろいろな場面が発生する中で瞬時に「Yes」か「No」かを判断することの難しさと、年齢や立場によって考えが異なること

を知ることができました。（詳細はHP参照）



写真-4 机上訓練(グループ討議)の様子

(2) かがわ防災技術研究会の活動

平成 28 年に本研究会を立ち上げ、学校防災アドバイザー派遣事業を中心に、各種防災支援や勉強会等の活動を行っています。

学校防災アドバイザー派遣事業は、香川県教育委員会からの協力要請にもとづき、各学校に防災の専門家がアドバイザーとして出向き、児童・教職員に対して防災教育の実施や危機管理マニュアル、避難訓練等への助言を行うものです。

令和 7 年度は、17 校園に 21 回、延べ 42 名を派遣しました。

(3) プラスワンの活動

「プラスワン」では、令和 17 年から始めた「出前授業」や例会などを通して技術研鑽・交流を行っています。

令和 7 年度の出前授業は、香川高等専門学校の 3 年生を対象に、当会から延べ 44 名が講師として参加しました。11 月には、20 年にわたる出前授業の活動が評価され、香川高等専門学校から感謝状が贈呈されました。

4. おわりに

今年度は、香川県で「日本海・瀬戸内海・太平洋縦断技術士会」を 10 月に開催予定ですので、会員の皆様には多数の参加をお願いいたします。

また、新規会員の勧誘や外部への情報発信等も積極的に行う予定ですので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

当会の HP <https://kagawa.ipej-shikoku.org/>

第119回プラスワン例会報告(うどん打ち体験)

香川県 機械部門
吉田 智紀
YOSHIDA Tomoki



写真-1 うどん

1. 概要

プラスワンは令和8年、30周年を迎えるにあたり、記念例会を5月に企画した。また、そのイベントとしてうどん打ち体験を企画し、4月に実施した。

当日は晴天に恵まれ、18名が参加し、終始和やかな雰囲気の中で開催された。

表-1 プログラム

実施日：令和8年4月11日 9:00 から 12:00 場所：本條氏所有の田んぼ（香川県坂出市）

2. 企画の経緯

前回、20周年の記念例会の際、午前うどん打ち体験、午後記念例会というプログラムで実施し、うどん打ち体験も好評であった。そのため、今回も実施の方向で検討していたが、同日開催は移動・準備・片付けの時間確保が難しかったのと、蓮華の季節からずれていたため、今回は日をずらして、イベントとして企画した。

企画内容は、ほぼ前回同様である。

3. うどん打ち体験

参加者は4つのグループに分かれ、うどんの生地を作るところから開始した。小麦粉は本條さんのところで採れたさぬきの夢を使用し、正確に計量しボウルでかき混ぜた。十分に水が回ったところで玉にしていって。今回は時間の都合で寝かしはせずに、足ふみで鍛えていき、生地を四角に伸ばして麺切機で切って完成。

そこから、田んぼに設置した窯で湯がいて完成。いわゆる“窯かけ”というスタイルでいただいた。



写真-2 うどん打ち(生地作りから麺切まで)



写真-3 湯がいて食べる

薬味・てんぷらなどは本條さんが準備していただいた。



写真-4 フルーツ演奏

食事中は、知り合いの方をお願いしたフルート演奏もあった。

4月の晴天のレンゲ畑で打ちたてのうどんを食べながらフルートに耳を傾けるとい、通常ではなかなか体験できない時間を過ごし、参加者からは好評の声が多く聞かれた。

4. おわりに

本條さんは地元でうどん打ち研究会を主宰されており、このようなイベントも定期的に行っているようなので、興味のある方はお問い合わせください。



写真-5 お疲れ様でした

第120回プラスワン例会報告(30周年記念例会)

香川県 機械部門

吉田 智紀

YOSHIDA Tomoki



1. 概要

プラスワンは今年発足 30 周年を迎え、下のプログラムで記念例会を実施した。例会には 55 名、懇親会は 44 名の参加があり、いつもの 2 から 3 倍の参加者を集め、盛大に開催することができた。

国本部とは同本部設立当初より、継続して交流・協力関係を築いている。プラスワンは技術士の研さん・交流の場の提供という使命を持って、協力関係を構築しており、いずれの団体からも謝意が伝え

2. 開会あいさつ 祝辞

挨拶は、プラスワン現幹事の吉田が行った。祝辞は(公社)日本技術士会四国本部は栗本事務局長に、香川県技術士会は加藤会長からいただいた。香川県技術士会とはプラスワン発足当初より、また四

表-1 プログラム

実施日：令和 8 年 5 月 23 日

場所：サンポートホール高松 61 会議室

1. 報告(13:30～13:50)

開会あいさつ 祝辞

2. 会員による活動報告(13:50～15:40)

研究会報告「西嶋八兵衛」

青葉工業(株) 丸山正氏

研究会報告「香東川」

(株) マスダコンサルタント 竹内克宜氏

大人も子どもも育つ！岡山県技術士若手の会
による理科教室

(株)エイチ・エス・ピー 小野朋子氏

阿南高専への出前講座

(株)エフ設計コンサルタント 天野大氏

出前授業・理科教室報告

(株)石垣 吉田智紀氏

3. 記念講演(15:50～16:50)

「高専スタートアップによる地域創生」

香川高等専門学校 校長 荒木信夫氏

4. 懇親会(17:30～19:30)

ミケイラ (高松市サンポート 8-40)



写真-1 開会あいさつ 祝辞

られた。また加藤会長は所用のためビデオレターによる挨拶であったが、映像・音声とも問題なく上映でき、事務局としてはほっとした。

3. 会員による活動報告

プラスワンは、この10年間、勉強会と称して小グループでの研究活動を行っていた。ここでは、その活動報告と近県の技術士の活動、それと出前授業・理科教室の報告を行った。

3.1.研究会報告「西嶋八兵衛」

西嶋八兵衛は江戸時代初期の人で、満濃池の修築、香東川の一本化など香川県の発展に大きく寄与した人である。本研究会では功績をたどるだけでなく、そこから思いをはせて銭形砂絵・栗林公園の築造も八兵衛の功績ではないかと発信している。また各種講演・絵本冊子の作成など功績を広く伝える活動についても報告があった。

3.2.研究会報告「香東川」

本活動は香東川を「ブラタモリ」と称して、フィールドワークに重点を置きつつ、香東川の付け替えについて考察したものである。付け替えの痕跡をたどり、土木工学的視点、産業史的考察など織り交ぜて、香東川の付け替えを検証している。最後は付け替えが高松にとって良かったのか、問題提起する形でまとめている。土木工学と地域史の両面からの考察が印象的であった。

3.3.大人も子どもも育つ！岡山県技術士若手の会に



写真-3 各種活動報告



写真-2 研究会報告

による理科教室

本発表は、岡山県技術士会にて実施してる理科教室の紹介である。プラスワンで実施している理科教室の参考にするため、発表をお願いした。参加する技術士が多く、一定の費用をかけて運営されており、充実した活動であることがうかがえた。ネタについては参考になる点がいくつかあった。準備の仕方も参考にしたい。

3.4.阿南高専への出前講座

徳島県技術士会の出前授業は、阿南高専の建設システム工学科の3年と4年生に対して実施している。そのため、1年間の学生の成長を実感できるのが大きな特徴である。また土木系にフォーカスしており技術士の専門との親和性も高い。香川高専での取組とは異なる特色があり、新たな知見を得ることができた。

3.5. 出前授業・理科教室報告

最後にプラスワンの出前授業・理科教室の取り組みの紹介。出前授業は年々参加者が増えており、ありがたいが、女性技術者の参加が少ないのが問題である。近年、高専の女子学生の増加は著しく、技術士のほうが対応できていない。今後、女性技術者の参加を促していきたい。また最近始めた理科教室についても紹介した。

4. 記念講演

記念講演は、近年出前授業でお世話になっている、香川高専の校長先生にお願いした。荒木先生は、高専発のスタートアップ育成に熱心で、その取り組みについて紹介をお願いした。



写真-4 記念講演

近年、日本の競争力低下が著しく、その要因が日本型の社会・組織にあるとして、それを変えていくためのアントレプレナーシップ教育・スタートアップ企業のマインドの定着などに取り組んでいる。講演では、高専教育がスタートアップ創出に適した特性を有していることについて紹介があった。高専の学生には自ら手を動かしてやってみるという姿勢があり、それが重要であると強調していた。また東京ではなく地域発にこだわる特徴も高専発スタートアップの特徴である。

地域の活性化に、高専の学生のパワーの重要性を感じることができた。

5. 懇親会

懇親会は高松の代表的なレストランの一つである、ミケイラを貸し切り実施した。また技術士の豊嶋さんをお願いして、三豊の市民オーケストラ、瀬

戸風ウィンドオーケストラの演奏付きとした。

ウェルカムドリンク・乾杯の後、早速演奏となった。定番の演目から昭和歌謡まで、およそ 30 分、圧倒的な演奏と楽しめた。およそ 30 名の編成で、職業も会社員・教師・学生と様々で、練習するのも大変だとは思いますが、息の合った演奏で感動的であった。約 30 名による迫力ある演奏に、会場は大いに盛り上がった。定期演奏・各種イベントへの出演もあるので、機会があれば実際に聞いてみていただきたい。



写真-5 懇親会

また歓談途中には、プラスワンの活動の記録をスライドショーとして上映した。ただ今回は、演奏とレストランの雰囲気と食事が素晴らしく、スライドへの注目度は相対的に低かった。

時間いっぱい歓談し、最後はいつも幹事を助けていただいている友安さんに中締めをお願いし、お開きとした。

6. お宝紹介ほか

ほかに、これまでの活動でプラスワンのお宝と呼ばれるものも会場に展示し、参加者に見てもらった。

出前授業で配布した冊子、学生の質問メモ・アンケートなどあまり時間は取れなかったが、見てもらうことができたと思う。また、本会発起人の一人で前幹事の本條さんからは参加者全員に、活動の記録(前半)が配布され、活動記録の継承についても期待が寄せられていた。ほかには本條さんからサプライズのプレゼントもあった。



写真-6 お宝・プレゼント



7. おわりに

多くの関係者の協力により、プラスワン 30 周年記念例会を無事開催することができた。参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。今後もプラスワンは技術士相互の研さんと交流の場として活

動を継続し、新たな企画にも積極的に取り組んでいきたい。特に新しい勉強会の立ち上げも課題ではある。ほかに、気軽に参加できる楽しいイベントにもチャレンジしたい。

最後に、記念例会のために立ち上げた実行委員会の皆さん、瀬戸風ウィンドオーケストラの皆様、そして当日参加していただいた皆様全員に、改めて感謝申し上げます。

これからもプラスワンの活動にご支援をお願いしたい。



写真-7 お疲れさまでした

愛媛県技術士会だより

愛媛県技術士会

事務局長 小椋 匡

OGURA Tadashi



1. 愛媛県技術士会の紹介

愛媛県技術士会は、1988年に有志により創立され、令和8年に創立38年を迎えました。

現在、正会員187名、準会員11名、合計198名（令和7年12月現在）で構成されています。会員相互の親睦・交流、技術士業務の普及・啓発、後進の育成等を通じて、地域産業と技術の発展に資する活動を展開しています。

また、公益社団法人日本技術士会四国本部が主催する年2回のCPDセミナーの共催に加え、独自の行事も多数開催しています。さらに、毎年会報誌を発行しており、最新号はVol.33（令和7年度発行）です。

2. 令和7年度総会・CPDセミナー等

2025年6月7日（土）に松山市・えひめ共済会館において、会員51名の参加を得て令和7年度の総会を開催しました。総会では、各議案の承認と新入会員の紹介を行いました。第102回CPDセミナー・公開講座・防災セミナーが開催され、会場54名、Web7名が参加しました。併せて技術士第二次試験合格者の祝賀会・懇親会も実施されました。



写真-1 セミナー会場の様子

CPDセミナーでは、岡山理科大学の畑明寿教授が「人と動物の臨床検査」をテーマに講演し、診断補助や疾病予防における臨床検査の重要性と、ヒト・動物双方における検査技術の高度化について

解説しました。公開講座では、愛媛県総合科学博物館の久松洋二氏が、小川正孝による新元素「ニッポニウム」の発見と、その後レニウムであったことが判明し再評価された経緯を紹介し、日本の科学史における意義を説明しました。防災セミナーでは、愛媛大学の鈴木静教授が能登半島地震の事例をもとに、被災後も地域に住み続けることを望む住民の実態と、「住み続ける権利」の重要性について提起しました。



写真-2 新合格者

3. She Build Café（シビルカフェ）

2025年10月5日、松山市の愛媛県県民文化会館において、「She Build Café（シビルカフェ）」を開催しました。



図-1 新たに作成したシビルカフェのロゴ

本イベントは、理系分野で学ぶ・働く女性を対象に、キャリアや将来についての意見交換を行い、相互理解と支援促進を目的としています。これまでの「リケジョカフェ」から名称を刷新し、「女性が築く未来」と「土木 (Civil)」の意味を含めた新たな取り組みとして実施されました。



写真-3 開催状況

当日は学生を含む3名が参加し、技術士試験の概要や女性技術士の現状に関する話題提供の後、自己紹介・グループワークが行われました。意見交換では、就職活動や業務内容、転勤の影響といった実務的なテーマに加え、女性が少数である職場における課題や無意識のバイアスについても議論がなされました。参加者同士が率直な意見を共有することで、新たな気づきと相互理解が深まる有意義な機会となりました。今後も、若手女性技術者の支援と交流の場として継続的な取り組みが期待されます。

4. 技術士試験対策セミナー

2025年、技術士第二次試験対策セミナーがSUKIYAKI 塾四国との共催により、出願対策（3月15日）、筆記試験対策（4月12日）、口頭試験対策（11月23日）の3回にわたり開催されました。本セミナーは、技術士を目指す技術者の支援を目的とした継続的な取り組みです。出願対策では、受験申込書作成におけるポイントやコンピテンシーの理解を中心に講義・個別指導が実施されました。筆記試験対策では、出題傾向の分析や答案作成方法に加え、過去問演習や合格者による体験談が行われました。口頭試験対策では、模擬面接を通じて実践的な対応力の向上が図られました。



写真-4 口頭試験対策セミナーの様子

いずれのセミナーにおいても、専門分野ごとの個別指導や添削指導が充実しており、受講者からは学習方法の明確化や理解促進につながったとの評価が得られました。今後も継続的な開催を通じて、技術士人材育成と合格支援の強化が期待されます。

5. CPD セミナー等(愛媛例会)・忘年会

2025年12月5日、松山市男女共同参画推進センターCOMSにおいて、第107回CPDセミナー・公開講座・防災セミナー・修習技術者支援セミナーが開催され、会場40名、Web5名が参加しました。



写真-5 CPD セミナーの様子

CPD セミナーでは、愛媛大学の森脇亮教授より流域治水をテーマに、気候変動に対応した防災・減災の取り組みやアプリ開発などの先進事例が紹介されました。公開講座では、愛媛大学名誉教授・松山坊ちゃん会会長の佐藤栄作氏『坊っちゃん』の自筆原稿をもとに作品成立の背景や正岡子規・高浜虚子との関係が解説されました。防災セミナーでは、愛媛大学大学院の越智正昭客員教授から、気象データとIoT・AIの活用による防災の高度化や地域リスク評価の重要性が示されました。

また、修習技術者支援セミナーでは、日本技術士会四国本部修習委員の井上博喜氏から、技術士制度の変遷やコンピテンシーに基づく修習の進め方について説明があり、RPDC サイクルによる継続的な能力向上の重要性が強調されました。セミナー終了後には懇親会・忘年会が開催され、参加者同士の交流が深まり、有意義な機会となりました。



写真-6 懇親会の様子

6. 現地見学会

2025 年 12 月 6 日、今治小松自動車道において現地見学会が開催され、日本技術士会四国本部と愛媛県技術士会の共催により 13 名が参加しました。本見学会は国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所の協力のもと実施されました。



写真-7 見学会での集合写真

当日は、今治湯ノ浦 IC 周辺、今治朝倉 IC 工事現場、別宮第 3 高架橋架設現場などを巡り、担当者から施工内容や技術的特徴について詳細な説明を受けました。今治小松自動車道は、本州と四国を結ぶ広域交通ネットワークの強化に寄与する重要

路線であり、物流・観光・防災など多面的な効果が期待されています。また、見学箇所周辺で発生した今治林野火災についても説明があり、災害対応や現場管理の重要性について理解を深める機会となりました。本見学会は、実際の施工現場を通じてインフラ整備の意義や課題を学ぶ、実務的かつ有意義な研修となりました。



写真-8 別宮第 3 高架橋の施工状況

7. お仕事フェスタ 2026

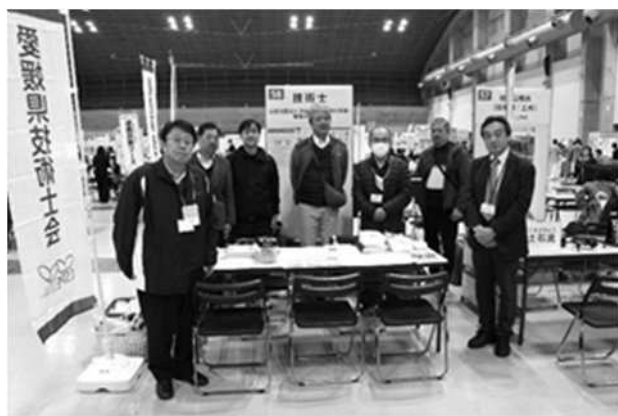
2026 年 3 月 7 日・8 日の 2 日間、アイテム愛媛において「お仕事フェスタ 2026」が開催され、日本技術士会四国本部と愛媛県技術士会が共催で出展しました。本イベントは小・中・高校生を対象に、職業理解と進路意識の向上を目的として実施されています。会場には 8 分野・約 120 職種、30 の体験ブースが設けられ、技術士会は「公務員・企業系分野」の職業ガイダンスブースとして参加しました。



写真-9 会場入り口の様子

2 日間で 123 名が来場し、過去を上回る多くの学

生に技術士の仕事を紹介する機会となりました。ブースでは、技術士制度や多様な専門分野について説明するとともに、毎年好評の液状化実験を実施しました。模型や実験装置を用いた体験により、地震時の地盤災害や防災の重要性への理解を促進しました。また、被災時の水確保に関する知識として紙食器の作成紹介も行いました。これらの活動を通じて、技術士が社会課題を解決する専門職であることを広く発信することができました。今後も継続的な取り組みにより、将来の技術士人材の育成と認知向上が期待されます。



写真－10 技術士会ブースと参加者の様子

9. 会報誌発行

愛媛県技術士会では、毎年 800 部の会報誌を発行しています。この会報誌は会員だけでなく、県内の地方公共団体、大学、マスコミなどにも配布しており、当会の活動を広く紹介することで、知名度の向上に努めています。

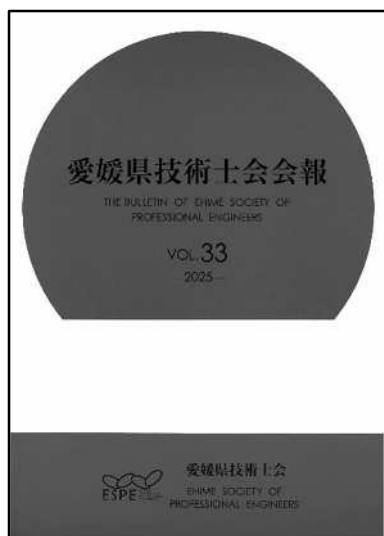


図-2 最新号 vol.33

10. おわりに

愛媛県技術士会では、ホームページを通じて活動報告などの情報発信を行っています。当会ホームページをご覧ください。<http://ehime-pe.jp/> QRコードから、ご覧になれます。

今後も会員相互の親睦を深めながら、地域社会に貢献できるよう、積極的に活動してまいります。



～仕事、ときどき旅—復興の景色—～

徳島県 建設部門

中川 頌将

NAKAGAWA Kosuke

(株) 基礎建設コンサルタント



1. はじめに

日本技術士会四国本部の中川と申します。会報PE しこくは毎回楽しみに購読していますが、リレーエッセイは自分には回ってこないものだと思います。そんな矢先、大学の先輩であり、コンサルタント技術者としても尊敬している大寺礼子さんから突然直電でバトンを渡され、断る隙もありませんでした（笑）。しかし、このような機会をいただけたことに、大変感謝しています。

私は建設コンサルタントとして主に港湾・海岸に関する業務に携わっており、技術士会四国本部では防災委員として防災セミナーや防災見学会などの活動をさせていただいています。そのようなことから、昨年、仕事を通じて縁のできた震災復興の地を再び訪ね、感じたことをお話しします。

2. 旅のきっかけ

私の所属する会社は徳島を拠点としています。2011 年の東日本大震災を契機に東北支店を立ち上げ、10 年ほど震災復興に関する業務に従事してきました。私も微力ながら海岸堤防や漁港施設の復旧設計に携わりましたが、納品完了とともに被災地との関わりも次第に薄れていきました。

あれから数年が過ぎ、昨年、高橋博之著『関係人口』（光文社）という本を読みました。「関係人口」とは、移住でも観光でもない、地域と継続的に関わる人々のことです。わかりやすく言えば、DASH 村に何年も通い続けるあの人たちのような存在でしょうか（メンバーはいろいろありましたが……^^;）。

読み進めるうちに、「あのまちは今どうなっているのだろうか」と思っている自分に気がきました。観光でも移住でも義務でもない。それでも、もう一度あの景色を自分の目で見てみたい—これが

「関係人口」というものなのだろうか？私が見に行きたかったのは構造物そのものではなく、復興後のまちのありのままの風景でした。遠く離れた東北、未曾有の震災からの復興という特別な背景があったからこそ、あのまちのことがずっと気になっていたのだと思います。東北支店の元支店長が現地におられ、案内役を快く引き受けてくれました。

3. 復興をめぐる旅—宮城県・岩手県—

宮城県と岩手県で訪れたのは、女川町、南三陸町、石巻市、気仙沼市、陸前高田市の 5 つのまちです。どのまちも、復興を遂げた新しい景色がそこにありました。湾奥まで続く海岸線には巨大な防潮堤がそびえ、かつてこの地域を襲った津波の規模を、今もなお静かに物語っていました。

復興の景色は地域によって大きく異なっていました。駅を中心にコンパクトにまとまった女川町、震災の記憶を未来へ伝える防災のまちとして再生した南三陸町、広域にわたる多様な地域を束ねた石巻市、水産業を核に産業復興を進めた気仙沼市、そしてほぼゼロからまちを造り直した陸前高田市—それぞれの景色に、地域が抱えた課題と住民の思いが刻まれているように感じました。

休日のためか観光客も多く、賑わいのある場所もありました。しかし中心部を少し離れると、どこか静けさが漂っていました。壮大なハード整備と静かな街並みのコントラストが、復興という景色の複雑さを物語っているようでした。

震災遺構として残る陸前高田震災記念公園、旧大川小学校、南三陸町防災対策庁舎などは、防災教育の場であると同時に、地域の記憶を伝える交流拠点となっていました。そこでは、語り部の話に耳を傾ける人、資料をじっくりと眺める人、手

を合わせて立ち尽くす人—さまざまな人々の姿がありました。単なる観光客なののでしょうか？震災の記憶に触れ、この地域のことを自分事として受け止めた瞬間、その人の中に小さな縁が生まれ、やがて関係人口へと発展していく—そんな可能性を秘めた景色でもありました。

4. 関係人口と地域技術者の役割

旅を終えて、「関係人口」という考え方は、復興・復興に携わる技術者にとっても大切な視点だと感じました。建設コンサルタントの業務は、納品をもって一区切りとなることが多いものです。しかし地域の課題は工事の完成で解決するものではなく、完成後からが本当のスタートです。復興は十年単位の長い取り組みであり、技術者自身も「関係人口」の一員として、業務後も地域に関わり続けることが大切だと感じました。

地域に根差した技術者は、地形・気候・災害履歴・地域文化といった「地域の記憶」を持つ存在

です。構造物を設計するだけでなく、人と地域をつなぐ「関係技術者」として動いていくことが、持続可能な地域づくりへの第一歩なのかもしれません。東北で見た景色、感じたこと—それを胸に、業務が終わった後も地域と関わり続ける「関係技術者」でありたい。今回の旅は、そんな覚悟を静かに問いかけてくれました。

5. おわりに

「仕事、ときどき旅」このタイトルには、関係人口としての働き方への思いを込めました。仕事（業務）で生まれた縁。それがときどき旅へと姿を変えながら、縁はつながり続けていく—そんな技術者でありたいと思っています。

さて、次のバトンは、業務・学会活動・技術士会と多方面でご活躍中の、四電技術コンサルタントの中河さんにお渡ししたいと思います。気鋭の技術者による次回のエッセイを、楽しみにしています。どうぞよろしくお願いします。



写真-1 南三陸さんさん商店街(南三陸町)



写真-3 震災遺構 門脇小学校(石巻市)



写真-2 高田松原津波復興祈念公園(陸前高田市)



写真-4 かき小屋(気仙沼市唐桑町)

リレーエッセイ

○～仕事、ときどき旅—復興の景色—～

中川 頌将 … 43

協賛団体

○協賛団体 … 45

☆編集後記・各県広報原稿担当委員 … 46

☆四国支部会報投稿規程（裏表紙背面）

PEしこく Vol. 31

令和8年7月〇〇日発行

協賛団体

(企業名アイウエオ順)

株式会社荒谷建設コンサルタント 四国支社 〒790-0045 愛媛県松山市余戸中2丁目1番2号	株式会社四国総合研究所 〒761-0192 香川県高松市屋島西町2109番地8
株式会社石垣 〒762-8511 香川県坂出市江尻町483番16号	四国電力株式会社 〒760-8573 香川県高松市丸の内2番5号
株式会社エイト日本技術開発 四国支社 〒790-0054 愛媛県松山市空港通2丁目9番29号	田村ボーリング株式会社 〒761-8074 香川県高松市太田上町299-7
株式会社エコー建設コンサルタント 〒770-0865 徳島県徳島市南末広町4番53号	株式会社第一コンサルタンツ 〒781-5105 高知県高知市介良甲828番地1
エスシー企画株式会社 〒770-0026 徳島県徳島市佐古六番町10-8	株式会社地研 〒780-8051 高知県高知市鴨部上町4番25号
株式会社エフ設計コンサルタント 〒770-8074 徳島県徳島市八万町下福万180-15	都市開発コンサルタント株式会社 〒780-8040 高知県高知市神田1427番地
株式会社カイセイ 〒780-8086 高知県高知市針木東町26番51号	南海測量設計株式会社 〒790-0964 愛媛県松山市中村3丁目1番7号
公益財団法人 香川県建設技術センター 〒761-8076 香川県高松市多肥上町1251番1号	ニタコンサルタント株式会社 〒771-0122 徳島県徳島市川内町鈴江西38番2号
株式会社和コンサルタント 〒770-0002 徳島県徳島市春日1丁目6番9号	日本工営株式会社 四国支店 〒760-0033 香川県高松市丸の内4番4号
共立工営株式会社 〒790-0054 愛媛県松山市空港通2-9-8	株式会社ファルコン 〒770-0053 徳島県徳島市南島田町二丁目84番地
構営技術コンサルタント株式会社 〒780-0945 高知県高知市本宮町105番地23	株式会社フジタ建設コンサルタント 〒771-0204 徳島県板野郡北島町鯛浜字原87-1番地
興国株式会社 〒770-0903 徳島県徳島市西大工町4丁目15番地	復建調査設計株式会社 四国支社 〒760-0020 香川県高松市錦町1丁目3番9号
株式会社高知コンサルタンツ 〒780-0065 高知県高知市塩田町8-1	株式会社芙蓉コンサルタント 〒790-0063 愛媛県松山市辻町2番38号
株式会社五星 〒767-0011 香川県三豊市高瀬町下勝間670番1号	株式会社松本コンサルタント 〒770-0811 徳島県徳島市東吉野町2丁目24番地6
株式会社シアテック 〒792-0003 愛媛県新居浜市新田町3丁目1番39号	四電エンジニアリング株式会社 〒761-8541 香川県高松市上之町3丁目1番4号
JFE商事テールワン株式会社 四国営業所 〒760-0019 香川県高松市サンポート2丁目1番 高松シンボルタワー11階	株式会社四電技術コンサルタント 〒761-0121 香川県高松市牟礼町牟礼1007番3号
一般社団法人 四国クリエイティブ協会 〒760-0066 香川県高松市福岡町3丁目11番22号	株式会社ロイヤルコンサルタント 〒781-8122 高知県高知市高須新町三丁目1番5号
四国建設コンサルタント株式会社 〒771-1156 徳島県徳島市応神町応神産業団地3-1	

令和8年7月現在

☆☆ 編集後記 ☆☆

FIFA ワールドカップ 2026 が、カナダ、メキシコ、アメリカ合衆国の 3 か国で共同開催され盛り上がりを見せている中、日本代表は 3 大会連続で決勝トーナメントへ進出することができました。

日本技術士会四国本部では、5 月にプラスワン 30 周年記念として会員による活動報告の他、懇親会では、私が団長を務める瀬戸風ウインドオーケストラをご招待頂き JAZZ・ボサノバなどをフルバンドで演奏させて頂きました。

どんなイベントも、裏では多くの時間を要する運営スタッフ（プロデューサ）が存在し、全体ストーリーを構成しています。そしてその準備されたステージで演者（プレイヤー）が活躍する構図ですが、私はこれからもどちらにも関わって、人のつながりに感謝しながらイベントをプロデュースし、時にはプレイヤーとして表に立って全体を俯瞰していきたいと考えています。

さて、四国本部広報委員会では、「PE しこく Vol.31」を発行することができました。これもひとえに、論文を出筆して頂けますの皆さま（プレイヤー）、そして発行まで準備していただけるスタッフの皆さま（プロデューサ）に感謝を申し上げ、編集後記とさせていただきます。

（四国本部広報委員会 豊嶋）

各県広報原稿担当委員

(株)和コンサルタント 菊池 昭宏 〒770-0002 徳島県徳島市春日 1-6-9 TEL 088-632-4330 E-mail : kikuchi@kanou-co.com	(株)四電技術コンサルタント 朝倉 光司 〒761-0121 香川県高松市牟礼町牟礼 1007-3 TEL : 087-845-8881 E-mail : k-asakura@yon-c.co.jp
(株)富士建設コンサルタント 小椋 匡 〒790-0044 愛媛県松山市余戸東 1-5-4 TEL : 089-972-0210 E-mail : tadashi.ogura@fujicc.co.jp	構営技術コンサルタント (株) 野並 清人 〒780-0945 高知県高知市本宮町 105-23 TEL : 088-850-0550 E-mail : nonami@koueicon.co.jp

☆四国本部広報委員は 10 名ですが、会報原稿の送付先は上記とさせていただきます。

公益社団法人 日本技術士会 四国本部

〒760-0067 香川県高松市松福町 2 丁目 15-24 香川県土木建設会館3F

TEL 087-887-5557 FAX 087-887-5558 E-mail : ipej-shikoku@me.pikara.ne.jp

四国本部会報投稿規程

公益社団法人 日本技術士会四国本部 広報委員会

内容	技術論文・技術解説・随筆・意見・近況報告等なんでも可。
構成	標題のあとに執筆者の県名・部門名・氏名・所属を書き、顔写真を貼り、本文に入る。 支部の役員という立場（各委員会・部会長など）で書かれた場合は、県・部門のかわりに役職を書く。文末の「以上」は省略して下さい。
ワープロ	Word 2007 以降 と完全に互換性のある形式とします。
用紙・段組	書式データ（テンプレート）に従って下さい。原稿にはページを打たないで下さい。
文体・強調	原則として、「である調」とします。句読点は「。」「、」を、「.」「,」は使用しないで下さい。強調したい部分は太字を使用しても可。アンダーライン、マーカーは用いないで下さい。
ページ数	偶数ページを基本とします。ただし、広報委員会からページ数の削減を求めることもあります。
原稿の色	原稿はモノクロ（写真・図表を含む）となりますので、あらかじめご了承ください。 なお、HP への掲載は原稿の通りとなります。
図表	図表の中の文字の大きさを、原則として 9～10 ポイント程度とします。 図、表のタイトルは、図－n、表－n、写真－n と表記し、MSP ゴシック 8～9 ポイント（太字使用も可）とします。表中のマーカーや文字囲み等は可とします。
写真	パソコンソフトで適宜貼り付けてください。カラー写真は白黒になりますので、白黒で判別がつくように確認してください。
著作権	文中に引用するものなどが著作権の許諾が必要な場合、執筆者の責任で著作権者の承諾を得て下さい。
原稿の送付	メールで、各県担当の広報委員経由とします。容量が大きくメールで送信できない場合は、CD などに記録して送付して下さい。原則として、プリントアウトしたものは受け付けません。
校正・修正	記事内容は投稿者の責任としますが、広報委員会で次の修正を行います。 ①原稿の字句に関する間違いについては、文意を変えない範囲で修正し掲載します。 ②投稿規程に沿っていないと判断した場合は、投稿者の了解を得ずに編集者が可能な限り修正して掲載します。 ③投稿内容が、ある特定の個人や団体の名誉を傷つける内容や、差別用語等の不適切な表現があると思われるものは、広報委員会において協議の上、修正箇所を表示して投稿者に返送し、適切な修正等が行われていることを確認の後掲載します。 またこの場合、翌号以降の掲載になることがあります。

☆書式データ（テンプレート）がありますので、各県担当まで連絡してください。

会報は、公益社団法人 日本技術士会四国本部の皆様や会友からの投稿で構成されています。

皆様から頂いた原稿は、広報委員に配布し検討に付されます。その検討結果にもとづいて修正・訂正を加えた後、印刷・製本に回します。原稿をいただいてから会報となって皆様の手許に届くまでの期間をなるべく短くするよう関係者一同努力しています。ひきつづき皆様からの積極的な投稿とご支援を賜りますようお願い申し上げます。